

パワードスピーカーシステム

POWERED LOUDSPEAKER

DXR 15 mk3

DXR 12 mk3

DXR 10 mk3

POWERED SUBWOOFER

DXS 18 mk3

DXS 15 mk3

DXS 12 mk3

ユーザーガイド

目次

1. はじめに	2
1.1. 記号表示について	2
1.2. マニュアルの記載内容に関するお知らせ	2
1.3. 主な特長	3
1.4. 同梱品（お確かめください）	4
1.5. オプション品（別売）	4
1.6. マニュアルの構成	4
1.7. Bluetooth® Audioについて	4
1.8. D-Remoteについて	5
1.9. ファームウェアのアップデート	5
2. 各部の名称と機能	6
2.1. フルレンジスピーカー DXRmk3	6
2.2. サブウーファー DXSmk3	7
2.3. リアパネル（フルレンジ、サブウーファー）	9
3. パネル操作	13
3.1. 基本操作	13
3.2. HOME画面と機能	16
3.3. アラートメッセージ	18
3.4. 初期化	19
4. 各画面の機能	20
4.1. MAINTENANCE画面	20
4.2. INPUT/OUTPUT/MAIN画面	23
4.3. PROCESSING画面	26
4.4. UTILITY画面	35
4.5. PRESET画面	45
5. Bluetooth® Audioの再生	47
6. D-Remote	48
6.1. D-Remoteの接続	48
6.2. D-Remoteの切断	48
7. セットアップ例	49
8. カーディオイドモードのセットアップ	52
9. 設置例	53
9.1. アイボルトを使用したつり下げ設置	53
9.2. 専用Uブラケットを使用した設置	54
10. 困ったときは	55
11. 資料	57

1. はじめに

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品は、ライブ会場や固定設備などさまざまな音響環境に対応できるパワードスピーカーです。このユーザーガイドでは、機能や操作方法を詳細に説明しています。本製品のさまざまな機能を十分にご活用いただくために、必要に応じてこのユーザーガイドをお読みください。

NOTE





- 本書では、特にことわりがない場合、イラストはDXR12mk3、DXS15mk3を使用しています。
- 本書では、DXR15mk3、DXR12mk3、DXR10mk3を「DXRmk3」、DXS18mk3、DXS15mk3、DXS12mk3を「DXSmk3」と表記しています。

本書で取り扱うDXRmk3シリーズおよびDXSmk3シリーズは、以下のモデルで構成されています。

	モデル	タイプ
フルレンジ	DXR15mk3	2-way 15"
	DXR12mk3	2-way 12"
	DXR10mk3	2-way 10"
サブウーファー	DXS18mk3	18"
	DXS15mk3	15"
	DXS12mk3	12"

1.1. 記号表示について

本製品やマニュアルに表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	内容
 警告	死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	傷害を負う可能性が想定される内容です。
 ご注意	故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される内容です。
 NOTE	操作や運用に関連した情報です。参考にお読みください。

1.2. マニュアルの記載内容に関するお知らせ

- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

1.3. 主な特長

■ DXRmk3シリーズ

新設計のアコースティックデザイン

- ・ホーンのサイズを拡張し、指向制御できる周波数を拡張
- ・大径のポートを中央部に配置し、風切り音や定在波の影響を低減
- ・新設計の自社製スピーカユニットを採用し、低ひずみでクリアな音質を実現

多様な用途に対応するエンクロージャーデザイン

- ・ポールソケットは2種類の角度が選択可能
- ・左右対称形状でフロアモニター設置時にミラー配置が可能
- ・アイボルト用のリギングポイントを装備。オプションのUブラケットで多様な設備設置に対応

FIR-X tuning™

クロスオーバーにFIRフィルターを活用し、スムーズな位相/周波数特性と優れた音質を実現

DSP MODE

メインスピーカーやステージモニターなど、用途や設置状況に応じた最適なチューニング設定を選択可能

ミキシング機能

ライン信号だけでなく、Bluetoothやマイクからの入力を出力可能

高信頼性

DSP制御でスピーカーとアンプを保護。厳しい環境下でも安心して使用可能

Bluetooth®接続

- ・Bluetooth接続により、スマートフォンなどから音楽再生やコントロールが可能
- ・専用アプリケーションソフトウェアD-Remoteを用いて、スピーカーのコントロールやモニタリングができ、スピーカー本体から離れた位置でスピーカーの状態を精緻に監視・制御することが可能

■ DXSmk3シリーズ

ハイパワー、大音圧、優れた低域再生能力

大音圧に有利な新形状のバンドパス方式を採用。高耐入力、低ひずみのウーファー、大出力アンプを搭載し、優れた低域再生能力と大音圧を達成

最適な音づくりのための優れた機能

- ・D-XSUB：再生周波数帯域をDSPでコントロール。さまざまな用途や音楽ジャンルに適した設定が選択可能
- ・選択可能なX-OVER：カットオフ周波数やLPF/HPFの連動/非連動が選択可能で、さまざまなアプリケーションに柔軟に対応可能
- ・カーディオイドモード：スピーカー後方への音圧を減少させ、前方への音圧を増幅させるカーディオイド設定が可能（DXSが2台以上必要）

高信頼性

キャビネットの素材には堅牢な合板を、塗装には高い耐傷性を誇るポリウレタ樹脂を採用

使い勝手の良さ

φ35 mmとM20の両方に対応するポールソケットを装備。オプションの静音キャスターを装着可能

Bluetooth®接続

- ・ Bluetooth接続により、スマートフォンなどから音楽再生やコントロールが可能
- ・ 専用アプリケーションソフトウェアD-Remoteを用いて、スピーカーのコントロールやモニタリングができ、スピーカー本体から離れた位置でスピーカーの状態を精緻に監視・制御することが可能

1.4. 同梱品（お確かめください）

- ・ 電源コード×1
- ・ 2芯-3芯変換アダプター×1
- ・ はじめにお読みください(兼保証書)×1

1.5. オプション品（別売）

スピーカー	スピーカーカバー	Uブラケット	キャスター
DXR15mk3	SPCVR-DXR153	UB-DXR15A	
DXR12mk3	SPCVR-DXR123	UB-DXRDHR12A	
DXR10mk3	SPCVR-DXR103	UB-DXRDHR10A	
DXS18mk3	SPCVR-DXS183		SPW-1
DXS15mk3	SPCVR-DXS153		SPW-1
DXS12mk3	SPCVR-DXS123		SPW-1

1.6. マニュアルの構成

- ・ **はじめにお読みください（製品に同梱）**
安全にご使用いただくための説明をしています。
- ・ **ユーザーガイド（本書）**
機能や操作方法を詳細に説明しています。
- ・ **D-Remote ユーザーガイド**
本製品をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末から、Bluetoothを通じてリモートコントロールするアプリケーションソフトウェアD-Remoteの操作方法を説明しています。

1.7. Bluetooth® Audioについて

モバイル端末などのBluetooth機器で再生する音声をDXRmk3シリーズおよびDXSmk3シリーズで拡声できます。
本製品から、Bluetooth機器を探してペアリングできます。ペアリング済のBluetooth機器からも手動で接続できます。
詳細は[UTILITY画面](#)>[BLUETOOTH SETUP](#)をご参照ください。

1.8. D-Remoteについて

D-Remoteは、本製品をスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末から、Bluetoothを通じてリモートコントロールするためのアプリケーションソフトウェアです。本製品のパラメーターをコントロールしたり、動作状況をモニターしたりできます。

D-Remoteのダウンロード方法は、ヤマハプロオーディオサイトをご参照ください。

<https://www.yamahaproaudio.com/>

詳細は「D-Remote ユーザーガイド」をご参照ください。

1.9. ファームウェアのアップデート

本製品は、操作性向上や機能の追加、不具合の修正のために、本製品のファームウェアをアップデートできる仕様になっています。

本製品のファームウェアのアップデートはD-Remoteから実行します。

アップデートの手順については、「D-Remote ユーザーガイド」をご参照ください。

```
Firmware update  
  
Receiving file: 3%  
Verifying file: 0%  
Updating file: 0%
```

アップデートが始まると画面に進捗を%で表示します。

アップデートが完了したら、結果を表示して自動的に再起動します。

NOTE

ファームウェアのアップデートには、平均して15分ほど時間がかかります。時間に余裕をもって行ってください。

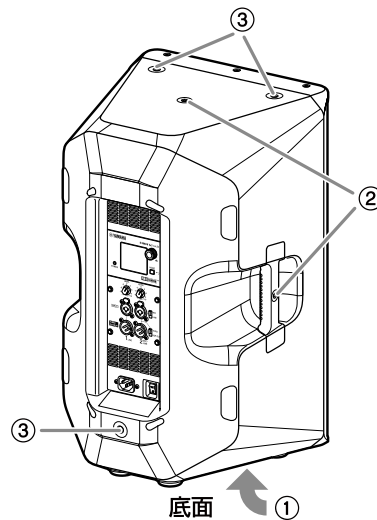
接続している電波の状態や周囲の環境によっては、アップデートが正常に完了しない場合があります。

そのような場合は、まず本体に近づいてアップデートしてください。

それでもうまくいかない場合は、場所や時間帯を変えて再度アップデートしてください。

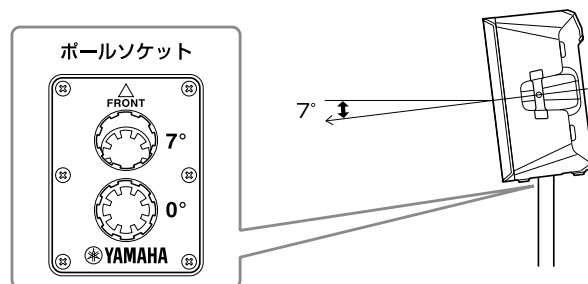
2. 各部の名称と機能

2.1. フルレンジスピーカー DXRmk3



① チルト対応ポールソケット

ポールソケットは、水平用の穴および7°傾斜用の穴の2つがあります。どちらか1つの穴だけを使用してください。スピーカーは、床面に対して水平、または下方方向に7°傾けてマウントできます。ソケットは、市販の35 mm径のスピーカースタンドまたはスピーカーポールに対応しています。



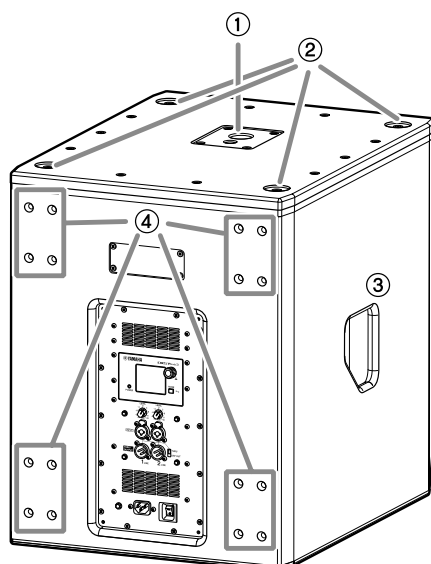
② Uブラケット用ネジ穴

オプション（別売）のUブラケットを取り付けるときに使うネジ穴です。

③ アイボルト用ネジ穴

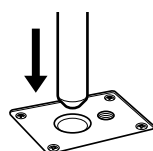
アイボルトを使ってつり下げるときに使うネジ穴です。アイボルト用ネジ穴は、キャビネット内に貫通しています。

2.2. サブウーファー DXSmk3

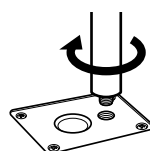


① ポールソケット

市販の35 mm径とM20ネジのスピーカーポールの両方に対応しています。どちらか1つだけを使用してください。



35 mm径



M20ネジ

ポールソケットを使ってスピーカーを設置する場合は、安全のために以下の条件を守ってください。

サブウーファー	設置するスピーカー	ポールの長さ
DXS18mk3	質量：21.0 kg以下 高さ：70 cm以下 (DXR15mk3まで)	120 cm以下
DXS15mk3	質量：21.0 kg以下 高さ：70 cm以下 (DXR15mk3まで)	120 cm以下
DXS12mk3	質量：17.4 kg以下 高さ：60 cm以下 (DXR12mk3まで)	95 cm以下
	質量：14.5 kg以下 高さ：50 cm以下 (DXR10mk3まで)	120 cm以下

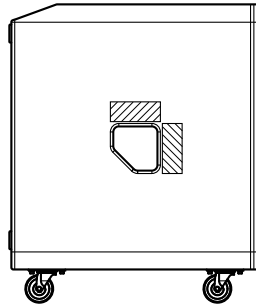
② ゴム脚受け

スピーカーを縦積みする場合は、上段のスピーカーのゴム脚をこのゴム脚受けに合わせてください。

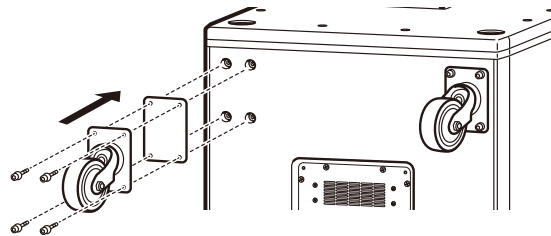
③ ハンドル

**注意**

サブウーファーを持ち上げて運ぶ場合は、必ずハンドルの斜線部を掴んで運んでください。斜線部以外を掴んで運ぶとサブウーファーが破損したり、けがをしたりする原因になります。



④ キャスター取り付けネジ



オプション（別売）のヤマハ キャスター SPW-1を取り付けるためのネジです。キャスターを取り付けることで運搬が容易になります。キャスターの取り付けには、DXSmk3本体に取り付けてあるネジを取り外して使用してください。キャスターを使用しない場合は、このネジを外さないでください。エア漏れにより音質に悪影響を及ぼします。

**注意**

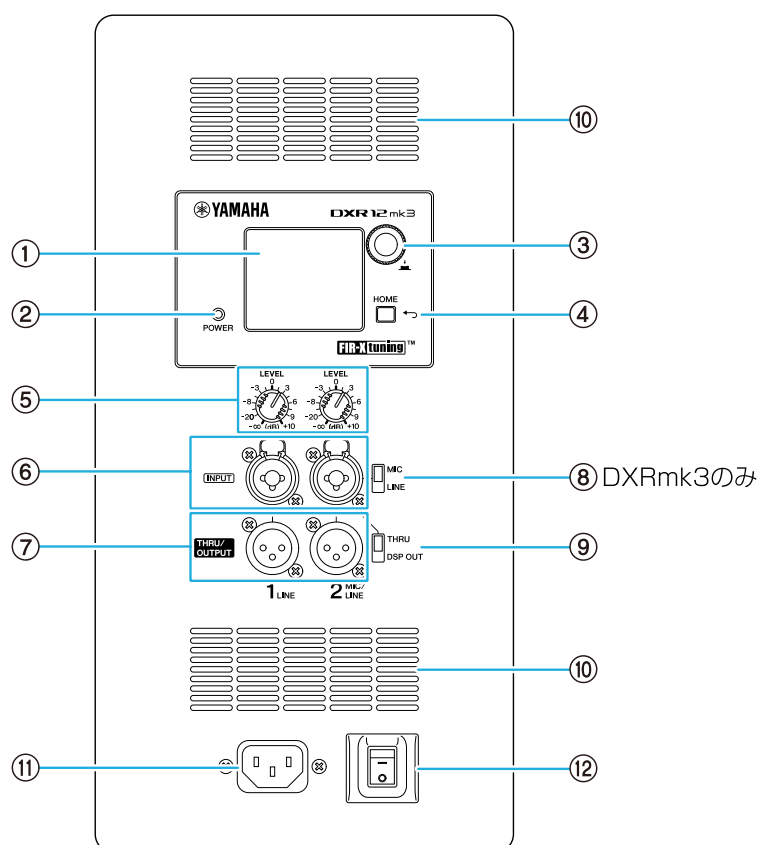
このサブウーファーは、必ずヤマハDXSmk3シリーズのオプションキャスターとお使いください。ヤマハDXSmk3シリーズのオプションキャスター以外のキャスターと一緒に使うと、不安定になり、けがをすおそれがあります。

**NOTE**

キャスターの取り付け方法や注意事項については、キャスターの取扱説明書をご参照ください。

2.3. リアパネル（フルレンジ、サブウーファー）

イラストはDXR12mk3のものを使用しています。



① カラーディスプレイ

各種機能の設定状態などを表示します。EQ、ディレイ、ルーティングなどを、グラフィカルに細かく調整できます。バックライト付きで、ディスプレイの明るさや自動消灯（**AUTO DIMMER**）を設定できます。

② [POWER]インジケータ

電源がオンのとき、緑色に点灯します。また、本製品起動時に、システム上の重大な異常を検出すると、点滅します（このとき、ディスプレイのHOME画面には、FATAL ERRORと表示されます）。

📖 NOTE

[POWER]インジケータは、AUTO DIMMERがONでも、完全には消灯しません。

③ メインノブ

メインノブを回して、ディスプレイに表示されるカーソルの位置を移動したり、パラメーターの値を変えたりします。メインノブを押して確定します。



④ [←] (バック) キー

このボタンを押すと、画面表示が1つ前の画面に移動します。1秒以上長押しすると、HOME画面に戻ります。

⑤ [LEVEL]コントロール

各[INPUT]端子に入力されるレベルを調節します。

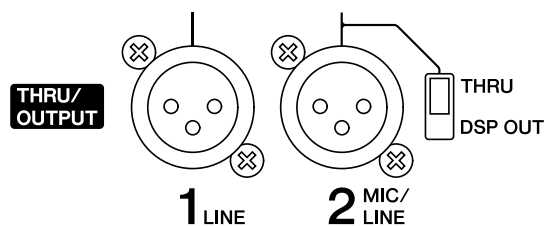
⑥ [INPUT]端子

ラインレベルのコンボ型入力端子です。XLRとフォーンの両方に対応します。2つの入力信号を、別々にレベル調整してミックスできます。

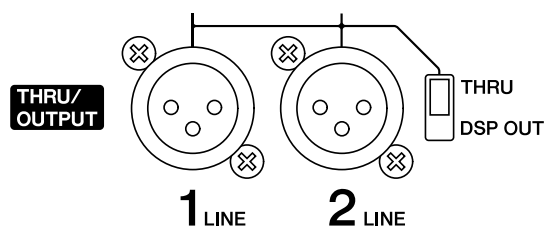
⑦ [THRU/OUTPUT]端子

XLR型の出力端子です。DXRmk3シリーズのチャンネル2、DXSmk3シリーズのチャンネル1と2は、出力信号を⑨[THRU/DSP OUT]スイッチで切り替えられます。DXRmk3シリーズのチャンネル1は[THRU](スルー)固定です。

<DXRmk3シリーズ>



<DXSmk3シリーズ>



⑧ [MIC/LINE]スイッチ (DXRmk3シリーズのみ)

チャンネル2への入力レベルに応じて切り替えます。マイクなどのレベルが低い機器を接続するときは[MIC]、ミキサーなどのレベルが高い機器を接続するときは[LINE]にします。初期設定では[MIC]に切り替えると、自動的にHPFが有効になります。

⑨ [THRU/DSP OUT]スイッチ

出力端子から出す信号を、入力端子からそのままスルーした信号[THRU]か、DSPで処理したあとの信号[DSP OUT]で切り替えます。[DSP OUT]を設定した場合は、出力信号を設定できます。出力できる信号についてはUTILITY画面 > LINK MODEをご参照ください。

⑩ 通風孔

排気側には冷却用のファンが装備されています。アンプの温度が既定値を超えるとファンが回転します。ファンは、アンプや電源の温度を元に、回転速度を制御します。



注意

本製品の通風孔（放熱用スリット）をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、本製品の背面には通風孔があります。通風孔をふさぐと、製品内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

⑪ [AC IN] 端子

次の順番で、付属の電源コードを接続します。電源コードを接続する前に、本製品の電源がオフになっていることを確認してください。

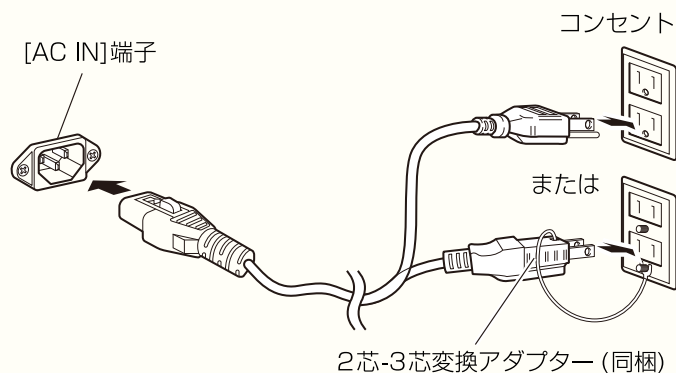
1. 付属の電源コードのプラグを本体リアパネルのAC IN端子に接続します。電源プラグはラッチによるロック機構（Vロック）がロックされるまでしっかり奥に差し込んでください。
2. 電源コードのもう一端のプラグを電源コンセント（AC100V）に接続します。

NOTE

- 電源コードを取り外すときは、逆の手順で行ってください。
- 電源プラグはVロックのラッチを押しながら取り外します。

警告

- 電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。
- 電源は必ずAC100Vを使用してください。
- 本製品は、アース接続を行なうことを前提として設計されています。感電と製品の損傷を防ぐため、付属の電源コードを使ってアース接続を確実に行ってください。なお、接続方法がわからないときは、修理ご相談センターにご相談ください。



注意

電源コードを接続したり、取り外したりする前に必ず電源をオフにしてください。

⑫ 電源スイッチ

本体の電源をオン(-)/オフ(○)します。



注意

電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。



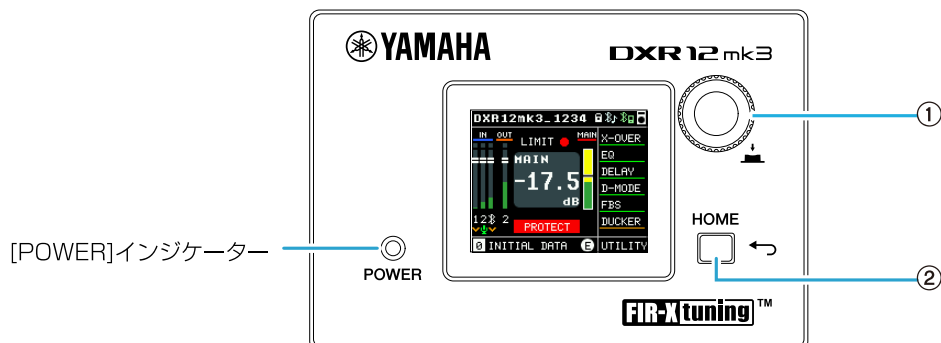
ご注意

- 電源スイッチのオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。電源スイッチをオフにしてから再度オンにする場合は、6秒以上の間隔を空けてください。
- 本体を複数台使う場合は、1台ずつ電源をオンにしてください。同時に複数の電源をオンにすると、電源電圧低下などで本体が正常に起動しないことがあります。

3. パネル操作

3.1. 基本操作

リアパネルにあるディスプレイとメインノブ、[←] (バック) キーを使用してさまざまなパラメーターを設定します。



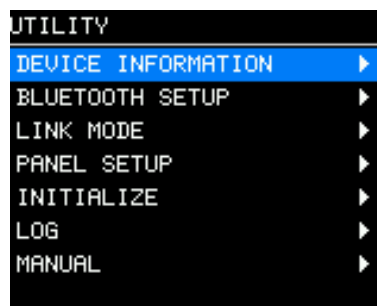
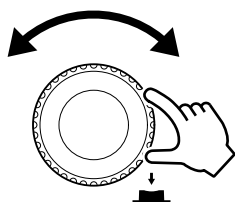
① メインノブ

カーソルの位置を移動したり、パラメーターの値を変えたりします。変化幅の広いパラメーター値は回転の速度に応じて加速します。

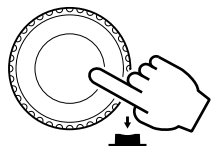
② [←] (バック) キー

押すたびに現在の階層から、1階層上に移動したり、1つ前に戻ったりします。1秒以上長押しすると、HOME画面に戻ります。

1. メインノブを回して、設定するパラメーターを選択します。選択している項目が青黒反転します。右に▶がある場合は、さらに下に階層があります。



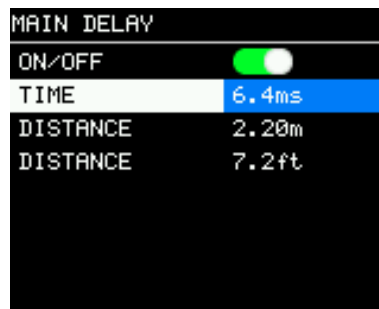
2. メインノブを押して、選択を確定します。



3. 手順1、2を繰り返して、目的の編集画面や設定画面まで移動します。

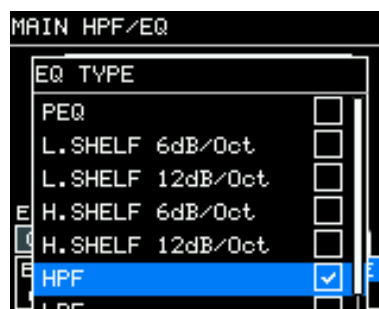
連続型のパラメーターの編集

メインノブを回してパラメーターの数値を編集します。リアルタイムで反映されます。



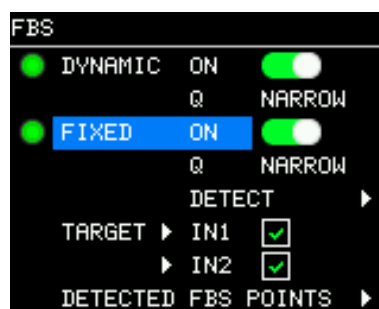
選択型のパラメーターの編集

メインノブを回して選択します。メインノブを押して確定するまで値は更新されず、音なども変わりません。

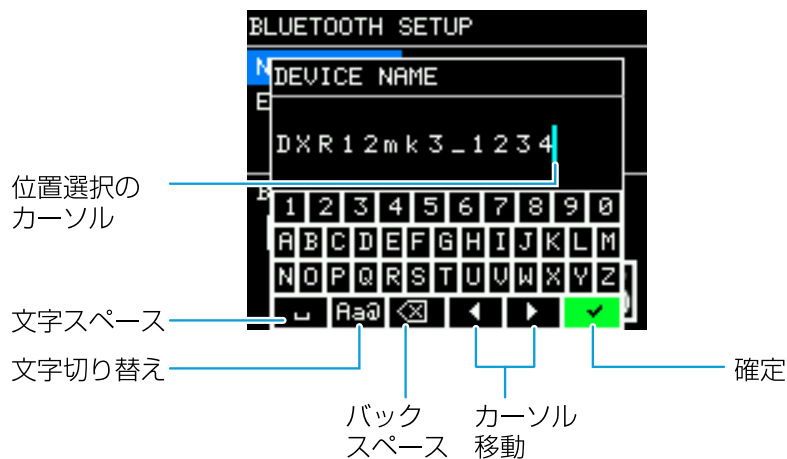


ON/OFFの設定、チェックボックス

メインノブを押す度に切り替わります。



●文字の入力方法



1. メインノブを回して、カーソル移動の[◀]、[▶]を選択します。
2. メインノブを押して、文字を入力する位置をカーソルで選択します。
3. メインノブを回して入力する文字を選び、メインノブを押して文字を確定します。
4. メインノブを回して[✓]を選択し、メインノブを押して確定します。

 NOTE

文字入力中に、[↩]キーを押すと、[✓]に移動します。

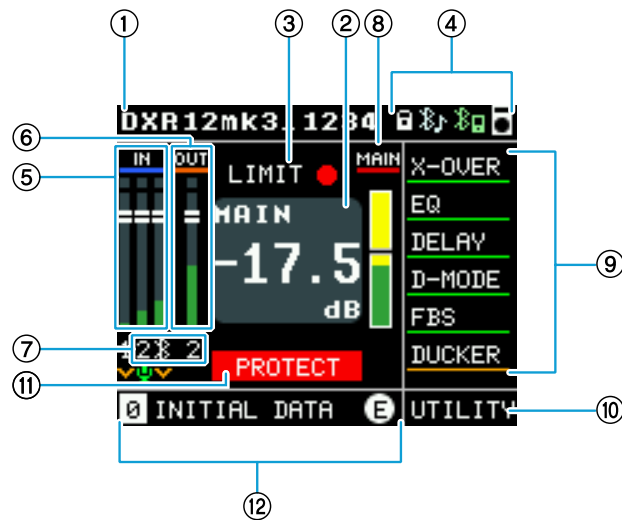
3.2. HOME画面と機能

電源スイッチをオンにするとHOME画面が表示されます。お使いのモデルの画面をご確認ください。

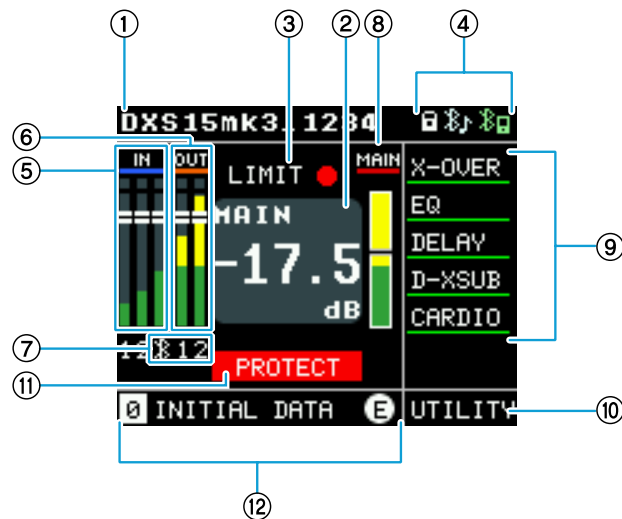
NOTE

- HOME画面以外を表示中でも、5分間パネル操作をしないと、自動的にHOME画面に戻ります。
- 下図の画面は、①のDEVICE NAMEにそれぞれ「DXR12mk3」、「DXS15mk3」と設定したときのHOME画面です。

DXRmk3



DXSmk3



① DEVICE NAME

デバイス名を表示します。カーソルで選択しメインノブを押すと、「BLUETOOTH SETUP」が表示されます。

- ・「NAME」でデバイス名を設定する画面に移動します。最大16文字まで表示できます。工場出荷時はモデル名+英数字が表示されています。
モバイル端末などのBluetooth機器には、ここで設定したデバイス名が表示されます。
- ・Bluetooth機能の設定は[UTILITY画面](#) > [BLUETOOTH SETUP](#)をご参照ください。

② LEVEL



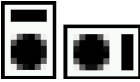
通常時はメインレベルを表示します。カーソルが各チャンネルのレベルメーターにある場合は、それぞれのレベルを表示します（単位：dB）。
各チャンネルのレベル調整中は青色で表示します。30秒間操作しないとカーソルを選択する状態に戻ります。

③ LIMIT

リミッター機能が作動したときにインジケーターが点灯します。

④ ICON

スピーカーの状態を常に表示します。

アイコン	状態
	パネルロック中
	Bluetooth® Audioが接続中
	D-Remoteが接続中
	AUTO V/H POSITIONが機能中（DXRmk3のみ）

⑤ INPUT

チャンネル（IN1、IN2、Bluetooth Audio）の入力信号のレベルメーターとレベルパラメーターを同時に表示します。メインノブで各チャンネルのレベルメーターを選択して、レベルを設定します。

設定は[INPUT/OUTPUT/MAIN画面](#)をご参照ください。

[DUCKER](#)機能が働いているチャンネルは[v]アイコンが表示されます（DXRmk3のみ）。

[MIC/LINE]スイッチの切り替えに連動して、自動でHPFやEQの設定が有効になった場合は、IN2にマイクのアイコンが表示されます（DXRmk3のみ）。

⑥ OUTPUT

OUT1（DXSmk3のみ）、OUT2の出力信号のレベルメーターとレベルパラメーターを同時に表示します。メインノブで各チャンネルのレベルメーターを選択して、レベルを設定します。

設定は[INPUT/OUTPUT/MAIN画面](#)をご参照ください。

⑦ CHANNEL PARAMETER

各チャンネルの詳細を設定します。

●対象チャンネル

DXRmk3：IN2、Bluetooth Audio、OUT2

DXSmk3：Bluetooth Audio、OUT1、OUT2

メインノブでチャンネル名を選択すると、設定画面が表示されます。

設定は[INPUT/OUTPUT/MAIN画面](#)をご参照ください。

⑧ MAIN

スピーカーの出力信号のレベルメーターとレベルパラメーターを同時に表示します。メインノブで選択して、レベルを設定します。設定は**INPUT/OUTPUT/MAIN画面**をご参照ください。

⑨ PROCESSING

DSPのプロセッシングを設定、表示します。設定は**PROCESSING画面**をご参照ください。効果が有効なときは緑色の下線が表示されます。

⑩ UTILITY

本体の各種設定や情報を表示します。設定は**UTILITY画面**をご参照ください。

⑪ INFORMATION

- ・ PROTECT：保護機能が働いているときに表示されます。
- ・ THERMAL：温度がWARNINGレベルでは黄色、ERRORレベルではオレンジ色に表示されます。ERRORレベル（オレンジ）の場合は出力信号がMUTEされます。② LEVELの画面には、MUTEされた場合のALERT（画面）が表示されます。
- ・ ALERT：ERRORレベル以上のALERTが発生したときに表示されます。ALERTが解消されると消えます。このメッセージにカーソルを合わせてノブを押すと**UTILITY画面 > LOG**に移動します。

⑫ PRESET

呼び出したプリセット番号とタイトルを表示します。音に関わる設定の保存、呼び出し、編集をします。パラメーターを変更すると、**E**マークが表示されます。設定は**PRESET画面**をご参照ください。

3.3. アラートメッセージ

本製品に異常が発生すると、ディスプレイにアラートメッセージが表示されます。各メッセージの詳細については、[資料](#)の「メッセージリスト」をご参照ください。

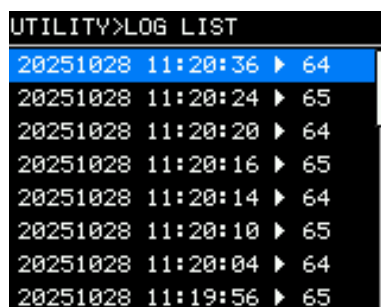
例)



[OK]を選択すると元の画面に戻ります。

[VIEW LOG]を選択すると、「LOG LIST」が表示されます。

スマートフォンやタブレットなどでQRコードを読み込むと、アラートの詳細な説明が表示されます。



3.4. 初期化

本製品の初期化には3通りの方法があります。

● **HOME画面 → UTILITY → INITIALIZEを選択して行う方法**

初期化するデータを選択できます。[INITIALIZE（初期化）](#)をご参照ください。

● **PINコードを忘れた場合などに行う方法**

PANEL SETUPのパネルロックで設定したPINコードを忘れた場合など、UTILITY画面でINITIALIZEを選択できない場合には、[MAINTENANCE画面](#) > INITIALIZEで初期化します。[MAINTENANCE画面](#)をご参照ください。

● **D-Remoteから行う方法**

初期化するデータを選択できます。操作方法は「D-Remoteユーザーガイド」をご参照ください。

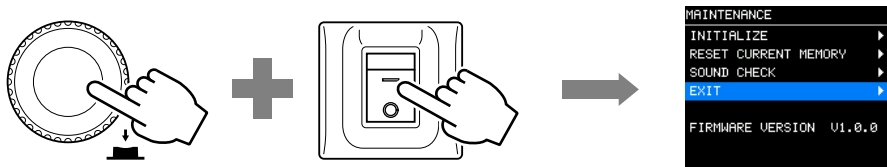
4. 各画面の機能

4.1. MAINTENANCE画面

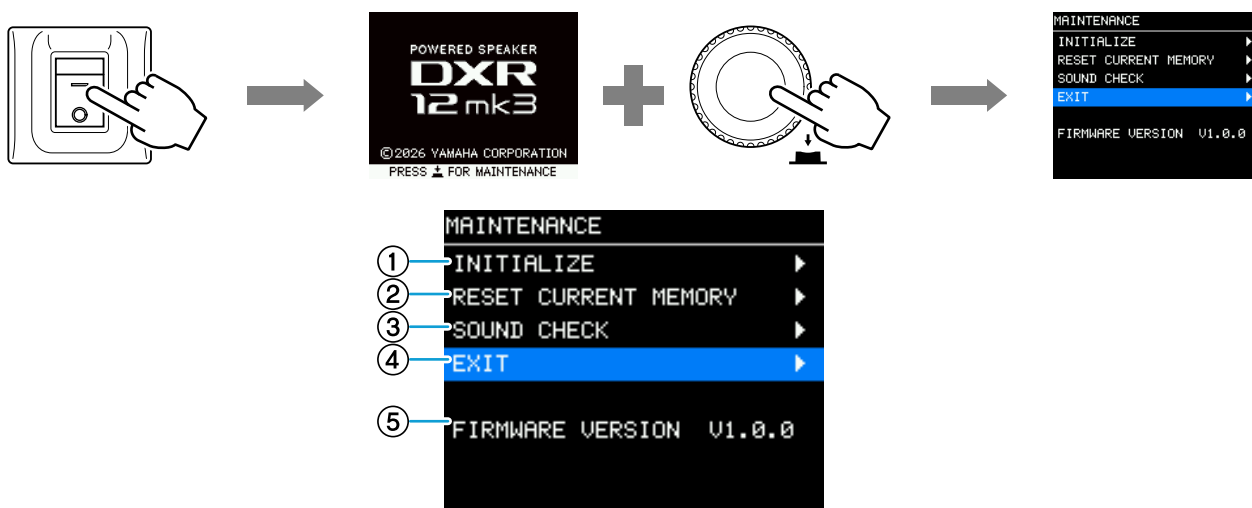
レンタルで使用する場合によく行われる操作を素早く簡単に操作でき、多数のスピーカーでも効率よく作業できます。

MAINTENANCE画面を表示するには2通りの方法があります。

- メインノブを押しながら電源スイッチをオンにします。



- 電源スイッチをオンにします。本製品のロゴが表示中にメインノブを押します。

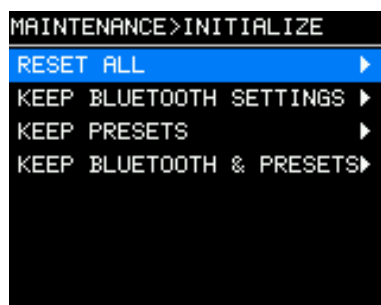


① INITIALIZE

1. 初期化する対象を選択します。

初期化の対象は下記のとおりです。

- RESET ALL : 工場出荷時の設定に初期化
- KEEP BLUETOOTH : Bluetoothの設定を保持
- KEEP PRESETS : PRESETSの設定を保持
- KEEP BLUETOOTH & PRESETS : Bluetoothの設定やPassword、PRESETの設定を保持

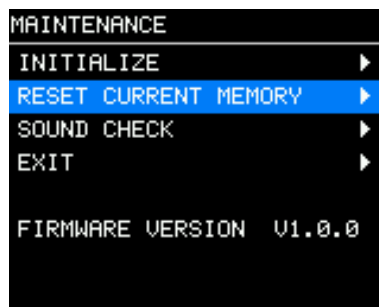


2. 確認画面で、[OK]を選択します。

② RESET CURRENT MEMORY

カレントメモリーのみ初期設定に戻します。

1. 「RESET CURRENT MEMORY」を選択します。

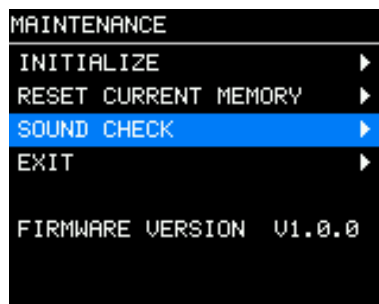


2. 確認画面で、[OK]を選択します。

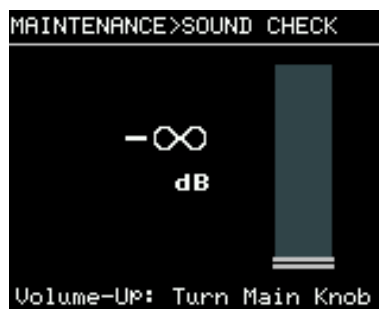
③ SOUND CHECK

スピーカーユニットの破損など、正常に動作していないかどうかを、スピーカーから出されるピンクノイズで確認できます。

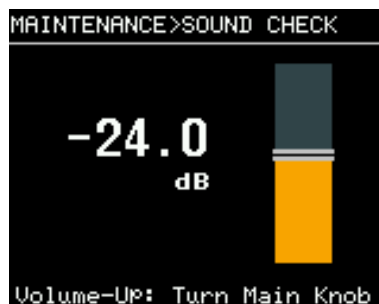
1. 「SOUND CHECK」を選択します。



SOUND CHECK画面を表示したときは、必ずボリュームが「-∞ dB」(無音)と表示されます。



2. メインノブを回してボリュームを上げます。ボリューム値に対応したピンクノイズを耳で確認して、正常か故障かを判断します。



-
3. メインノブ、または[←] (バック) キーを押すと、SOUND CHECK画面からMAINTENANCE画面に戻ります。このとき、ボリュームは「-∞ dB」 (無音) に戻ります。

④ EXIT

選択すると、確認画面が表示されます。[YES] を選択するとHOME画面に戻ります。

⑤ FIRMWARE VERSION

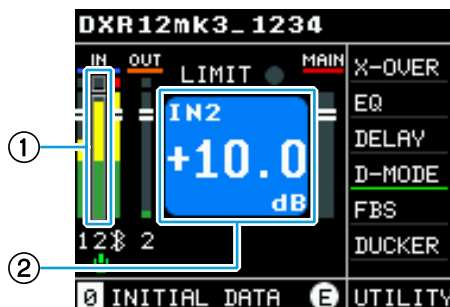
ファームウェアのバージョンを表示します。

4.2. INPUT/OUTPUT/MAIN画面

4.2.1. IN1/IN2/BT IN/OUT1 (DXSmk3のみ) /OUT2/MAINのレベル設定

- ①カーソルで各チャンネルのレベルメーターを選択し、メインノブを押します。
- ②メインノブを回して各チャンネルの入力信号や出力信号のレベルを設定します。メインノブを押して確認します。

例) DXR12mk3 IN2



- D-Remoteの設定でMUTEがONの場合は、「MUTED by App」と表示されます。



- ・ MUTEの解除
「MUTED by App」の表示中にメインノブを押します。MUTE解除の確認画面で [OK] を選択します。

4.2.2. CHANNEL PARAMETER

●IN2の詳細設定 (DXRmk3のみ)

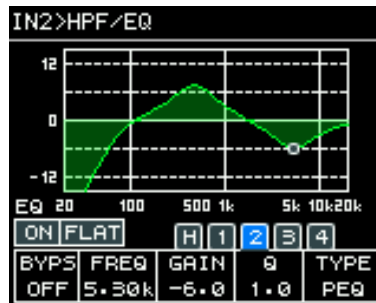
カーソルでHOME画面のチャンネル名「2」を選択します。



① HPF/EQ

マイク入力のHPFやEQを設定します。

- ・ 上段にはF特性を表示し、HPFとEQも同時に表示します。
- ・ 下段にはHPFの「H」やEQバンドの「1」～「4」を切り替えて、それぞれのパラメータ値を表示します。それぞれのパラメータ値の設定は[PROCESSING画面](#)>[EQ](#)をご参照ください。

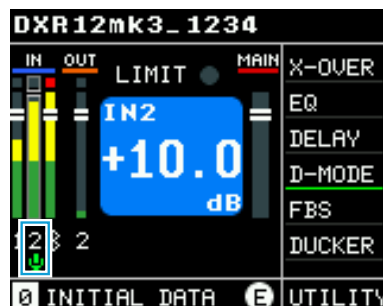


② AUTO MIC EQ

メインノブを押す度にオン/オフが切り替わります。オンのとき、本体の[MIC/LINE]スイッチの位置を検出して自動的に適切なEQが設定されます。



設定が有効になった場合は、HOME画面のIN2にマイクのアイコンが表示されます。



●Bluetooth® Audioの接続

カーソルでIN[Bluetooth]を選択し、「BLUETOOTH SETUP画面」で設定します。

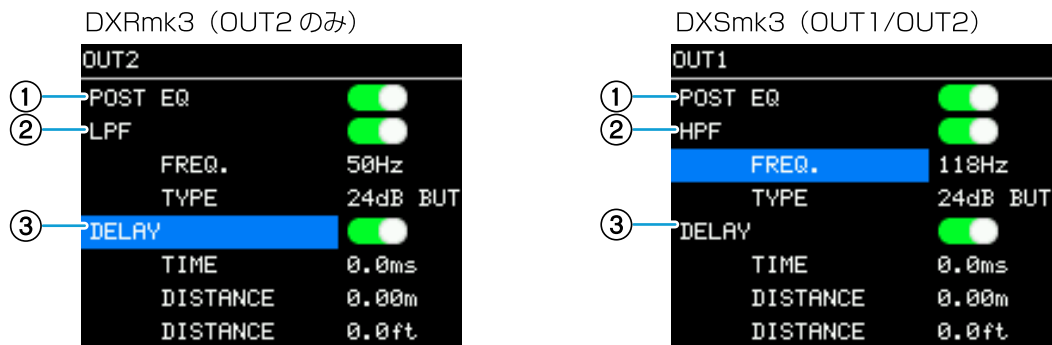
設定方法は、「UTILITY画面のBLUETOOTH SETUP」と同じです。

[UTILITY画面](#)>[BLUETOOTH SETUP](#)をご参照ください。



●OUT1/OUT2の詳細設定

カーソルでHOME画面のチャンネル名「1」または「2」を選択します。



① POST EQ

MAIN EQをかけた音声を出力するか、かけない音声を出力するかを設定します。

② LPF (DXRmk3) /HPF (DXSmk3)

設定方法は、PROCESSING画面>X-OVERと同じです。[X-OVER](#)をご参照ください。

③ DELAY

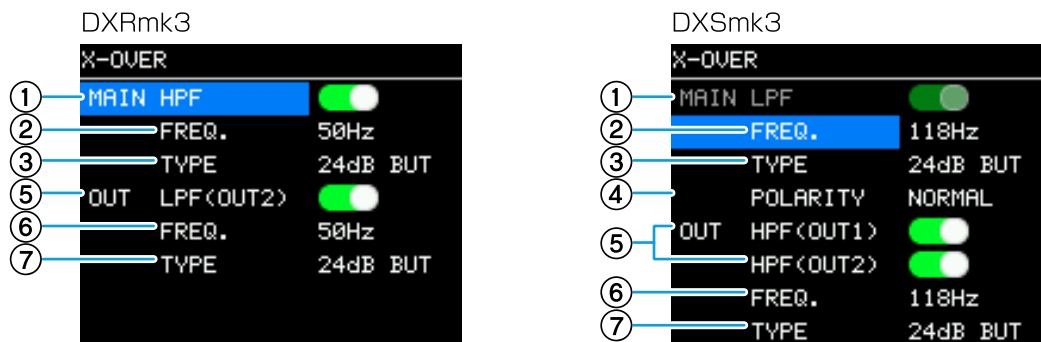
設定方法は、PROCESSING画面>DELAYと同じです。[DELAY](#)をご参照ください。

4.3. PROCESSING画面

4.3.1. X-OVER

フルレンジとサブウーファーを組み合わせる場合に、X-OVER（HPF/LPF）を設定します。音声をDXSmk3で受けてフルレンジへ送る構成と、DXRmk3で受けてサブウーファーへ送る構成を想定しています。

送り先がDXRmk3シリーズ、DXSmk3シリーズ以外の場合のためにフィルターをかけて送ることができます。



NOTE

DXRmk3シリーズとDXSmk3シリーズを組み合わせる場合は、[PRESET画面](#) > [FACTORY PRESET](#) を呼び出すと最適なX-OVERの設定が適用されます。

① MAIN HPF/MAIN LPF

DXRmk3：スピーカーに出力する音声のHPFのオン/オフを設定します。

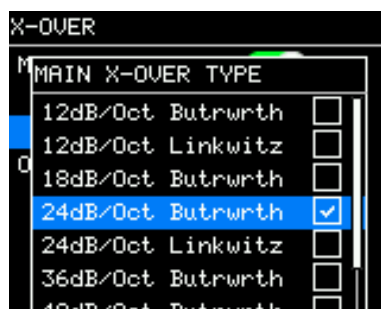
DXSmk3：スピーカーに出力する音声のLPFは常時ONの状態です。

② MAIN FREQ.

クロスオーバーの周波数を設定します。

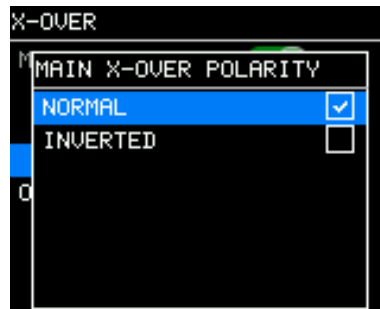
③ MAIN TYPE

フィルターのタイプを選択します。



④ MAIN POLARITY (DXSmk3のみ)

「NORMAL」を設定すると正相になり、「INVERTED」を設定すると反転します。



⑤ OUT LPF/OUT HPF

DXRmk3：OUTPUT端子2に出力する音声のLPFのオン/オフを設定します。

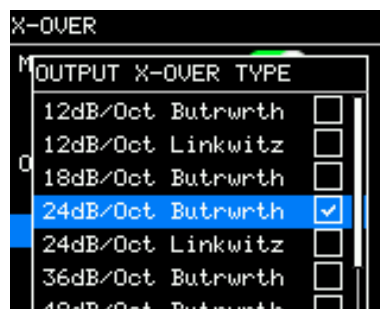
DXSmk3：OUTPUT端子1または2に出力する音声のHPFのオン/オフを設定します。

⑥ OUT FREQ.

クロスオーバーの周波数を設定します。

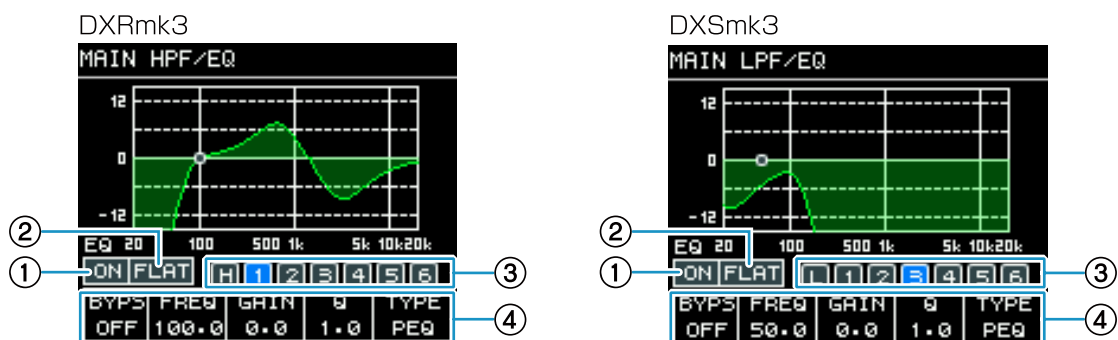
⑦ OUT TYPE

フィルターのタイプを選択します。



4.3.2. EQ

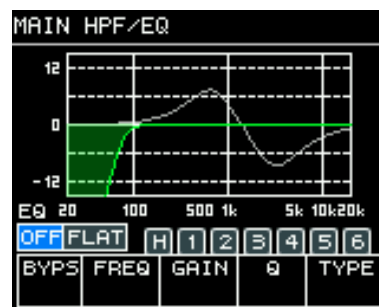
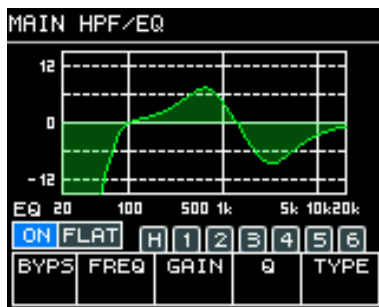
スピーカー全体の周波数特性を調整します。用途や好みに合わせて、HPF (H) やLPF (L) および6バンド (1～6) のEQの各パラメーターを編集できます。



① ON/OFF

EQのオン/オフを設定します。

EQが [ON] の場合、グラフは緑で塗り潰して表示されます。EQが [OFF] の場合、グラフの輪郭のみが表示されます。



② FLAT

全バンドのGAINを0dBに設定します。

③ バンド : DXRmk3 (H, 1~6) / DXSmk3 (L, 1~6)

パラメーターを表示するバンドを選択します。選択したバンドでメインノブを押すと、カーソルがパラメーター表示に移動します。

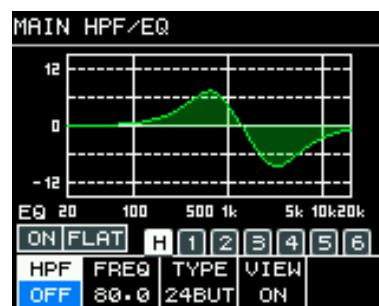
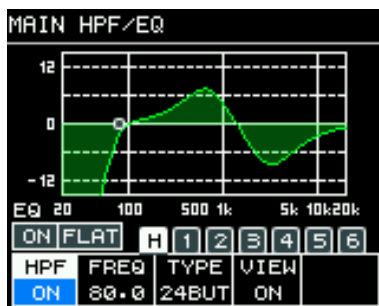
④ パラメーター表示

各バンドのパラメーターを表示します。パラメーター名にカーソルを合わせてメインノブを押すと、パラメーター値の設定ができます。[←] (バック) キーを押すと、カーソルがパラメーター名に戻ります。もう一度[←] (バック) キーを押すと、バンド選択に戻ります。

また、パラメーター名にカーソルがある状態でメインノブを回し続けると、隣のバンドのパラメーターに移動できます。

● バンド[H]の設定

HPFがONの場合、グラフは緑で塗り潰して表示されます。HPFがOFFの場合、グラフには表示されません。

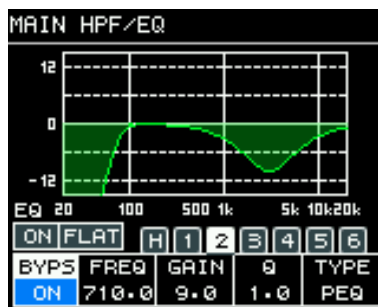


NOTE

MAIN EQのバンド [H] および [L] の [VIEW] パラメーターでは、HPFおよびLPFの周波数特性を表示するかどうかを、ON/OFFで選択できます。

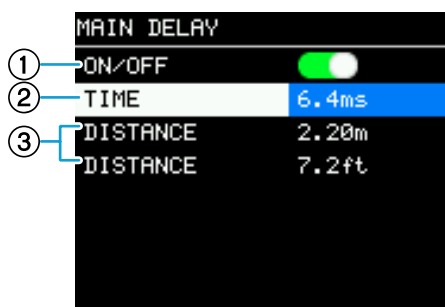
●バンド [1] ~ [6] の設定

BYPSがONの場合、対象のバンドはTHRUとして表示されます。



4.3.3. DELAY

ディレイタイムを設定します。スピーカー間の距離を補正するときなどに使用します。



① ON/OFF

ディレイのオン/オフを設定します。

② TIME

ディレイタイムをミリ秒単位で設定します。

③ DISTANCE [m, ft]

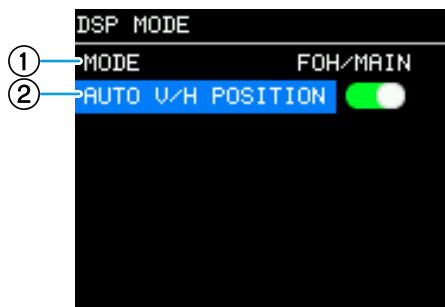
ディレイタイムを距離（メートル単位とフィート単位）で表示します。

NOTE

3つのディレイタイムの表示は連動して変化します。

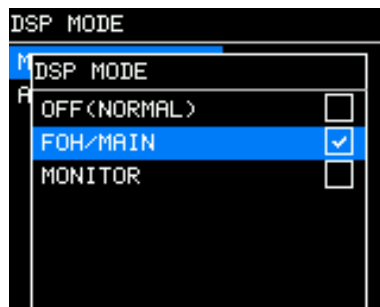
4.3.4. DSP MODE (D-MODE) – DXRmk3のみ

DSP MODEを設定します。用途に最適な周波数特性に設定します。



① MODE

DSP MODEのモードを設定します。



- OFF (NORMAL) : DSP MODEがオフになります。汎用的な周波数特性に設定されます。
- FOH/MAIN : メインスピーカーに適した周波数特性になるように高域と低域を持ち上げた設定です。初期設定または初期化した場合はFOH/MAINが選択されます。
- MONITOR : フロアモニターとして重要な明瞭性を確保し、床に設置したときに起こりやすい低域の膨らみ（ブーミーさ）を抑えた設定です。

② AUTO V/H POSITION

AUTO V/H POSITIONのオン/オフを設定します。

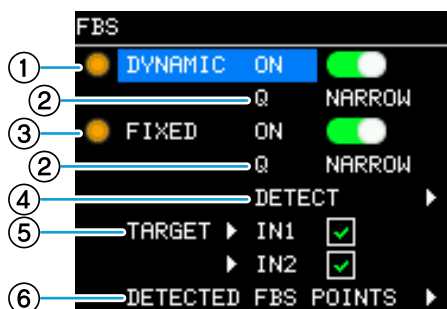
オンにすると、自動的にDSP MODEが設定されます。本製品が縦置きの場合は「FOH/MAIN」、横置きの場合は「MONITOR」に設定されます。

HOME画面に、スピーカーの設置状態をアイコンで表示します。

4.3.5. FBS (DXRmk3のみ)

FBSを設定します。スピーカーから出力された音声マイクに回り込むことで生じる不快なハウリングを防ぐ機能です。

- DYNAMIC型
使用中に発生したハウリングをリアルタイムで見つけて抑えます。ハンドマイク向けです。
- FIXED型
事前にハウリングが発生しやすいポイントにFBSを設定します。固定マイク向けです。



① DYNAMIC ON/STATUS

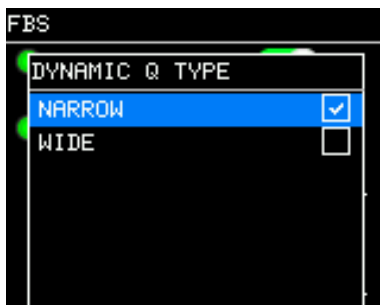
DYNAMIC型のオン/オフを設定します。オンの時はインジケーターが緑色に点灯し、さらに1バンドでも効果がかかるとオレンジ色に点灯します。

② DYNAMIC Q/FIXED Q

DYNAMIC型またはFIXED型でかけるフィルターのQ（効果の範囲の広さ）を、NARROWまたはWIDEで設定します。

- NARROW：音質への影響が小さく、音楽再生や生楽器の演奏などに向いています。ハウリングを除去するバンドひとつあたりのフィルターのQが狭いため、ハンドマイクなどマイクとスピーカーの位置が変化する環境では、多くのバンドが必要となることがあります。
- WIDE：音質への影響がNARROWと比べて大きく、スピーチなどに向いています。ハウリングを除去するバンドひとつあたりのフィルターのQが広いため、ハウリングを除去しやすいです。

例) DYNAMIC型 Q



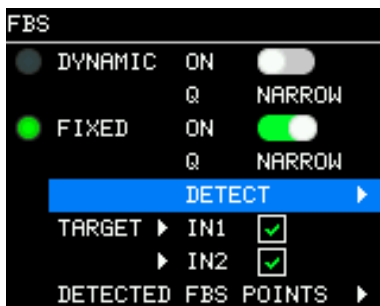
③ FIXED ON/ STATUS

FIXED型のオン/オフを設定します。オンの時はインジケーターが緑色に点灯し、さらに1バンドでも効果がかかるとオレンジ色に点灯します。

④ FIXED DETECT

FIXED型の事前設定を行います。ハウリングの原因となる周波数を事前に検出するための機能です。

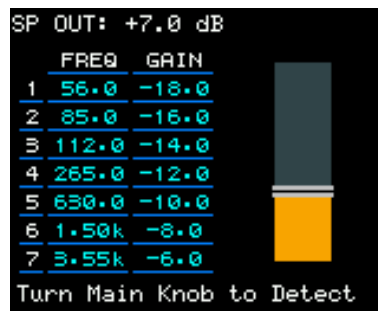
1. マイクとスピーカーを設置した状態でFIXED型の [DETECT] を選択します。



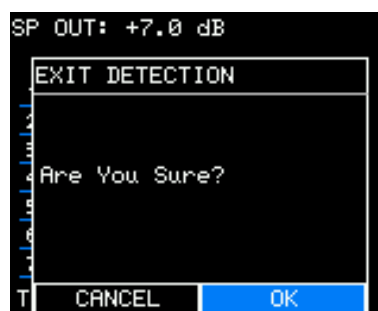
2. DETECT機能の確認画面で、[OK] を選択します。



3. メインノブを回して、スピーカーから出力される信号レベルを少しずつ上げます。



- 信号レベルを上げると、ハウリングが発生し始めますが、自動的に抑えられます。抑えたときのフィルターの周波数とゲインは保存され、画面に表示されます。
4. メインノブ、またはバック[←]キーを押して、DETECT機能を停止します。確認画面で、[OK]を選択します。



- D-RemoteからDETECT機能が実行されている間は、本体側でのパラメーターの変更ができないように、待機画面が表示されます。



⑤ TARGET

IN1 (CH1) またはIN2 (CH2) にFBSを設定します。

⑥ DETECTED FBS POINTS

バンドごとに検出された周波数と設定したゲイン値が表示されます。

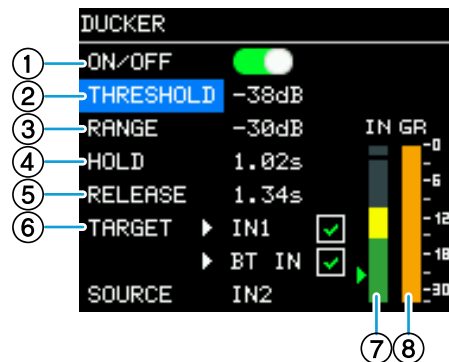
FBS>DETECTED FBS POINTS		
FIXED		
	FREQ	GAIN
1	56.0	-18.0
2	85.0	-16.0
3	112.0	-14.0
4	265.0	-12.0
5	630.0	-10.0
6	1.50k	-8.0
7	3.55k	-6.0

NOTE

- DETECT機能は何度でも実行できますが、前回までの測定結果は引き継がれず、実行するたびに最新の結果に書き込まれます。
- ①のDYNAMIC型がオンになっている場合、自動的にDYNAMIC型をオフに切り替えます。DETECT機能の処理が終了すると、DYNAMIC型は自動的にオンに戻ります。

4.3.6. DUCKER (DXRmk3のみ)

IN2にマイクや楽器の音声を入力したときに、他のチャンネル(IN1、Bluetooth Audio)の音量を自動的に下げるダッカー機能を設定します。



① DUCKER ON/OFF

ダッカー機能のオン/オフを設定します。

② THRESHOLD

ダッカーの効果がかかる信号レベルを設定します。IN2の入力信号がこのレベルを超えると、IN1またはBT INの音量が下がり始めます。

③ RANGE

ダッカーの効果がかかっているときに、IN1またはBT INの音量をどれだけ下げるかを設定します。

④ HOLD

IN2の入力信号がTHRESHOLDを下回った後も、ダッカーの効果を維持する時間を設定します。

⑤ RELEASE

HOLD時間の終了後、IN1およびBT INの音量が元のレベルに戻るまでの時間を設定します。

⑥ TARGET

ダッカーの効果の対象を、IN1およびBT INから選択します。

⑦ IN 2 METER

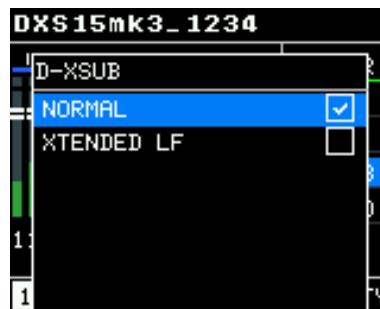
IN2の入力レベルを表示します。また、THRESHOLDの設定値は [▶] アイコンで確認できます。

⑧ GR METER

ダッカーの効果のかかり具合を表示します。

4.3.7. D-XSUB (DXSmk3のみ)

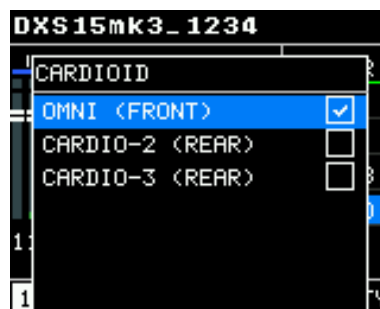
D-XSUBを設定します。用途や音楽ジャンルに最適な周波数特性に設定します。



- NORMAL : D-XSUBがオフになります。汎用の周波数特性の設定です。
- XTENDED LF : より低い低域まで再生周波数を伸ばした設定です。

4.3.8. CARDIOID (DXSmk3のみ)

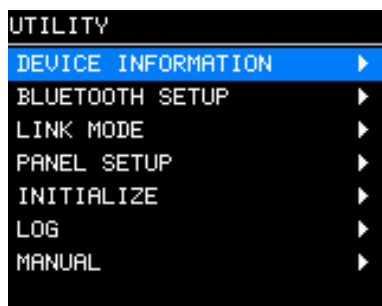
カーディオイドモードを設定します。[カーディオイドモードのセットアップ](#)をご参照ください。スピーカーの向きや台数に応じて設定を変えます。カーディオイドモードを使用しない場合は、OMNI (FRONT) に設定します。



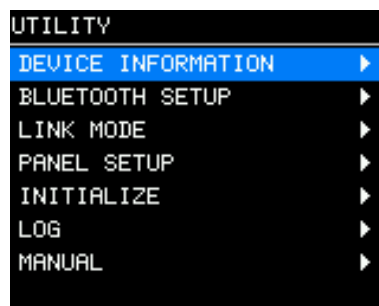
4.4. UTILITY画面

本製品の各種設定や情報を表示します。

DXRmk3



DXSmk3



4.4.1. DEVICE INFORMATION

本製品の情報を設定したり、表示したりします。



① NAME

デバイス名を設定します。ここで設定したデバイス名が、モバイル端末などのBluetooth機器に表示されます。



NOTE

- デバイス名は最大16文字まで入力できます。
- 入力できる文字は以下のとおりです。
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 1234567890
 ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [\] ^ _ ` { | } ~ (スペース)
- 工場出荷時のデバイス名は、本製品のモデル名に、個体を識別するための4桁の文字列を付加した形式で設定されています。
 例：DXR12mk3_1234
 これにより、同じモデルの製品が複数台ある場合でも、各個体を識別することができます。

② VERSION

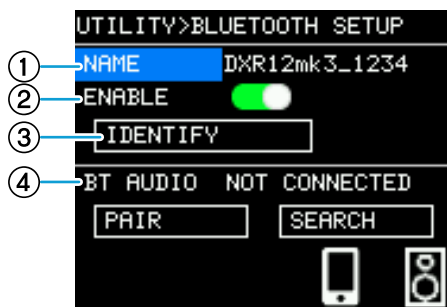
ファームウェアのバージョンを表示します。

③ THERMAL

アンプ部の温度を4段階表示します。温度に応じてリミッターやミュートがかかります。

4.4.2. BLUETOOTH SETUP

Bluetooth機能の設定を行います。



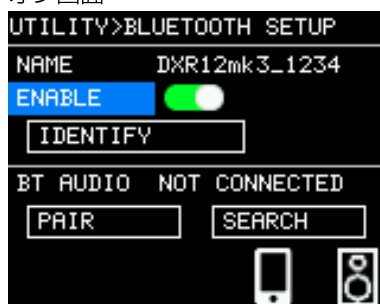
① NAME

DEVICE INFORMATIONで設定した本製品の名前が表示されます。この画面からもデバイス名を設定できます。

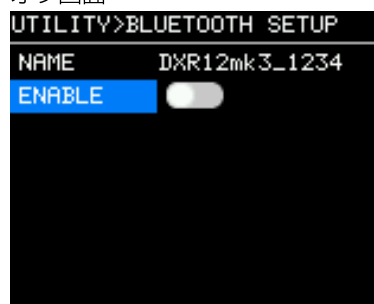
② ENABLE

Bluetooth機能のオン/オフを切り替えます。オンの場合には画面下部にBluetooth Audioに関する情報が表示されます。オフの場合は表示されません。

オン画面



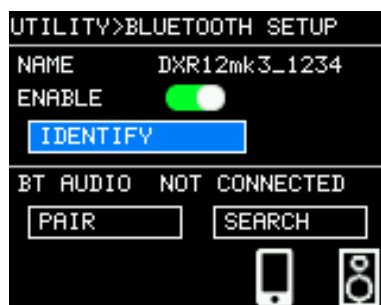
オフ画面



③ IDENTIFY

本製品とD-RemoteをBluetooth接続している場合は、本製品からD-Remoteに識別 (IDENTIFY) 信号を送信できます。

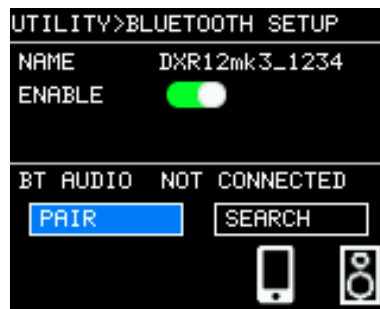
[IDENTIFY]を選択すると、D-Remoteに表示されている仮想デバイスが点滅します。



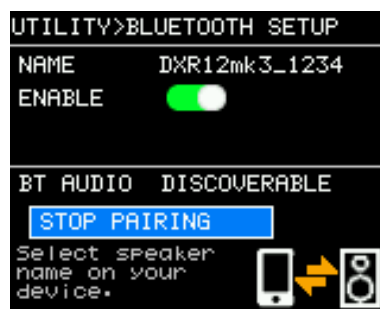
④ Bluetooth® Audio

●Bluetooth機器を初めてペアリング（登録）する

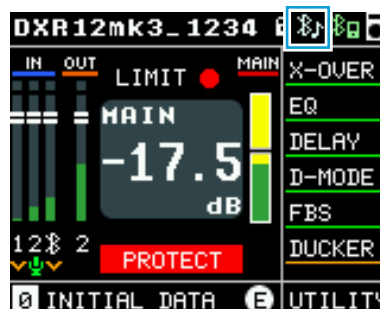
1. [PAIR]を選択します。



ペアリング実行中の画面に切り替わります。ペアリングを中止するときは[STOP PAIRING]を選択します。



2. Bluetooth機器側のBluetooth設定をオンにします。
詳しい操作方法はBluetooth機器の取扱説明書をご参照ください。
3. Bluetooth機器側に接続リストが表示されたら、リストから接続する本製品を選びます。
リストには、①NAMEで設定したデバイス名が表示されます。
ペアリングが完了すると自動的に接続されます。HOME画面に接続中のアイコンが表示されます。



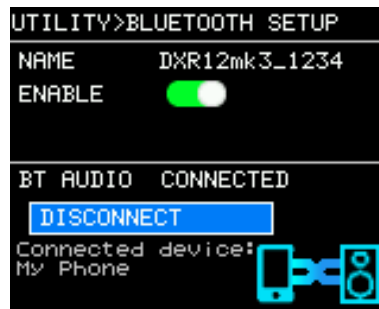
NOTE

DXRmk3シリーズおよびDXSmk3シリーズは、最大8台のBluetooth機器とペアリング（登録）できます。9台目のBluetooth機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古いBluetooth機器の登録情報が削除されます。なお、同時に接続して動作する台数は1台のみです。

●Bluetooth® 機器との接続を切断する

Bluetooth機器との接続を切断するには、次のいずれかの方法で切断してください。

- Bluetooth機器側のBluetooth設定をオフにする
- 接続中の画面から切断する。
[DISCONNECT]を選択すると接続が切断されます。



●最後に接続したBluetooth® 機器に本製品側から再接続する

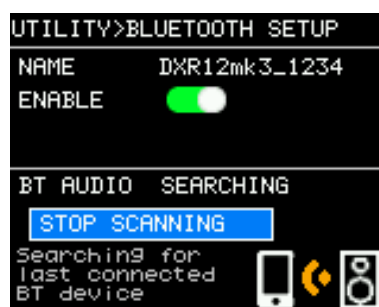


- [SEARCH]を選択します。
最後に接続していたBluetooth機器を検索します。
- Bluetooth機器側のBluetooth設定をオンにします。
接続が完了すると、HOME画面に接続中のアイコンが表示されます。
[STOP SCANNING]を選択すると検索を中止します。



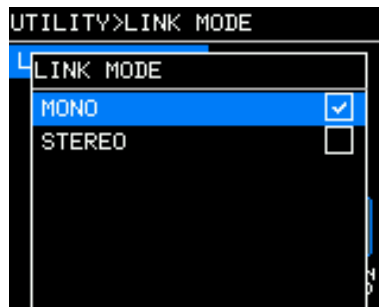
●自動再接続

Bluetooth接続したまま本製品の電源を切った場合は、次に電源を入れたときに、最後に接続していたBluetooth機器を自動的に検索します。



4.4.3. LINK MODE

複数のDXRmk3およびDXSmk3を接続して使用する場合に、MONO、STEREOから選択します。



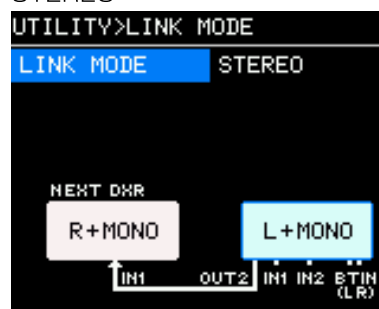
音声信号のルーティングがわかるように、選択したMODEに応じた画面が表示されます。

DXRmk3

MONO

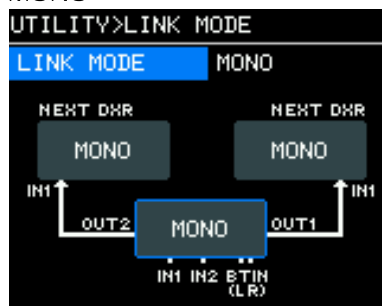


STEREO

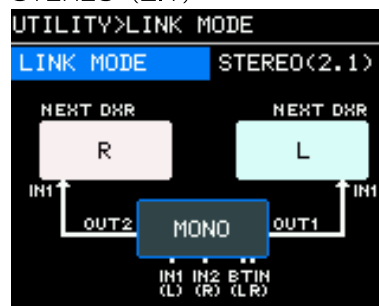


DXSmk3

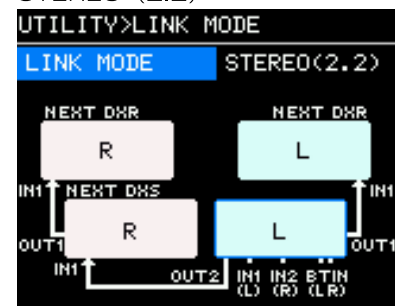
MONO



STEREO (2.1)



STEREO (2.2)



●LINK MODEと音声のルーティング

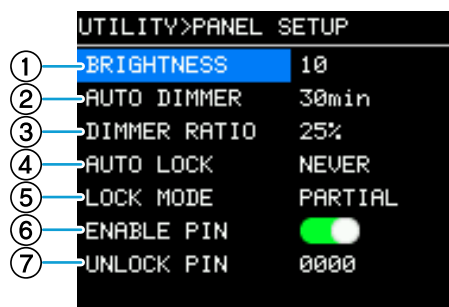
モデル	LINK MODE	SP OUT	OUT1	OUT2	用途
DXRmk3	MONO	IN 1+2(FBS) BT L+R		IN 1+2 BT L+R	1台でMONO使用。2台に 拡張
	STEREO	IN 1+2(FBS) BT L		IN 1+2 BT R	2台でBT (Bluetooth) ス テレオ再生
DXSmk3	MONO	IN 1+2 BT L+R	←	←	全てMONO使用
	STEREO (2.1)	IN 1+2 BT L+R	IN 1 BT L	IN 2 BT R	2.1構成でSTEREO使用
	STEREO (2.2)	IN 1 BT L	IN 1 BT L	IN 2 BT R	2.2構成でSTEREO使用

4.4.4. PANEL SETUP

ディスプレイの表示方式を設定します。

NOTE

D-Remoteを使用すると、Bluetooth接続されているすべての本製品のディスプレイの設定をまとめて操作できます。

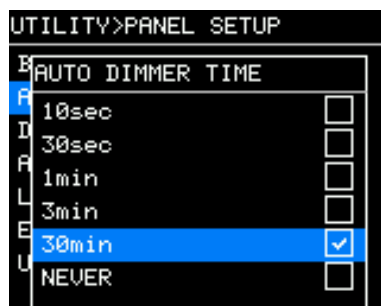


① BRIGHTNESS

ディスプレイと[POWER]インジケータの明るさを設定します。1～10の10段階で設定できます。

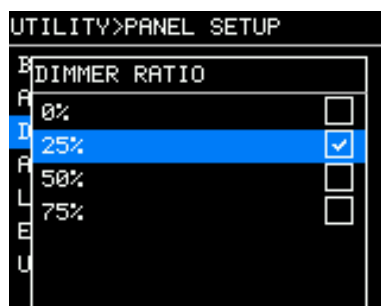
② AUTO DIMMER (AUTO DIMMER TIME)

ディスプレイが暗くなるまでの時間を選択します。「NEVER」はAUTO DIMMERの効果がかかりません。



③ DIMMER RATIO

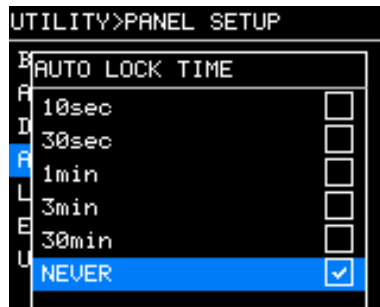
暗くなったときのディスプレイの明るさを選択します。



- ・ 0%に設定されていても[POWER]インジケータは消灯しません。
- ・ 効果がかかった状態で、メインノブやバック[←]キーを操作すると、DIMMERはいったん解除されます。

④ AUTO LOCK (AUTO LOCK TIME)

操作が行われない状態が続いたときに、パネルが自動的にロックされるまでの時間を選択します。



- ロックがかかるとHOME画面に移動します。HOME画面の右上に鍵のアイコンが表示されます。
- 再起動したときもロックがかかった状態で起動します。
- ロック中はパネルの操作ができませんが、D-Remoteからは操作できます。

●パネルロックの解除

ロック中にメインノブやバック[←]キーを操作すると、ロック解除のメッセージが表示されます。PINコード（4桁の認証番号）を設定している場合は、PINコードを入力してロックを解除します。いったん解除すれば、次に自動でロックがかかるまでは操作できます。

- PINコードを設定していない場合



PINコードの入力は不要です。[OK]を選択するとロックが解除されます。

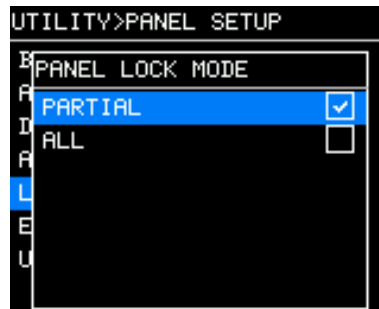
- PINコードを設定している場合：PINコードの入力画面が表示されます。



設定した4桁のPINコードを入力します。ロックが解除されてHOME画面に戻ります。

⑤ LOCK MODE (PANEL LOCK MODE)

パネルロックの設定をします。



- ・ PARTIAL：ディスプレイ表示に対する操作がロックされます。MAIN LEVELのみ操作は可能です。
- ・ ALL：パネルロックを解除する操作以外はできません。

⑥ ENABLE PIN

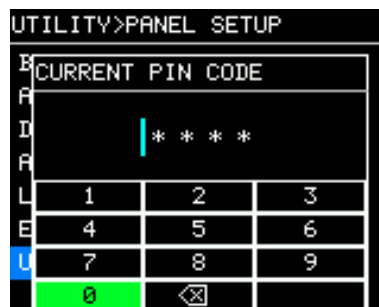
パネルロックに使用するPINコードの有効/無効を設定します。PINコードを入力して設定します。



⑦ UNLOCK PIN

パネルロックのPINコード（任意の4桁の数字）を設定します。

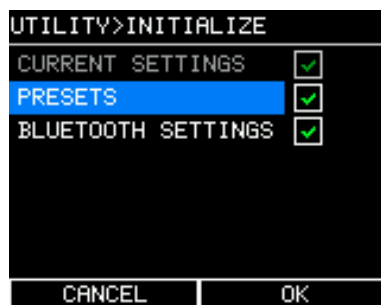
PINコードを設定すると、パネルロックを解除するときにPINコードの入力が必要になります。



4.4.5. INITIALIZE（初期化）

本製品の内部のデータを選択して初期化します。

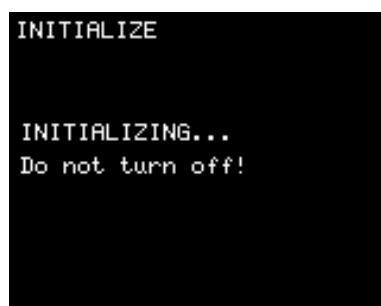
1. メインノブを回して初期化する対象を選び、メインノブを押して確定します。



初期化の対象は下記のとおりです。

- CURRENT SETTINGS：PRESETとBluetoothの設定以外。常に初期化の対象です。
- PRESET：プリセット設定
- BLUETOOTH SETTINGS：Bluetoothの設定

2. 確認画面で、[YES]を選択します。
実行中は「電源を落とさないでください」とメッセージが表示されます。



初期化が完了すると、自動的に再起動します。

4.4.6. LOG

本製品で生じたアラート情報や、通常で動作中のイベント（電源ONやPRESET RECALLなど）の操作履歴を確認できます。システムログデータは、トラブルや故障の解析に役立ちます。

NOTE

ログデータは内部メモリーに保存できる数を越えた場合、古いログから順に削除されて新しいログデータが保存されます。

● LOG LIST

内部に記録された動作ログ全体を表示します。ログはイベントが発生した順番で表示します。時間情報の表示は、2種類あります。

① 「#NNNNNNN HH:MM:SS▶NN」の形式

本製品では、ログは以下の形式で記録されます。

#NNNNNNN：本製品の生産後の延べ起動回数

HH:MM:SS：本製品を起動後の経過時間

NN：アラート番号

```
UTILITY>LOG LIST
#0000005 11:20:36 ▶ 64
#0000005 11:20:24 ▶ 65
#0000005 11:20:20 ▶ 64
#0000005 11:20:16 ▶ 65
#0000005 11:20:14 ▶ 64
#0000005 11:20:10 ▶ 65
#0000005 11:20:04 ▶ 64
#0000005 11:19:56 ▶ 65
```

② 「YYYYMMDD HH:MM:SS▶NN」の形式

D-Remoteを接続すると、ログは接続されたモバイル端末の時刻で記録されます。

YYYYMMDD：年月日

HH:MM:SS：時刻

NN：アラート番号

```
UTILITY>LOG LIST
20251028 11:20:36 ▶ 64
20251028 11:20:24 ▶ 65
20251028 11:20:20 ▶ 64
20251028 11:20:16 ▶ 65
20251028 11:20:14 ▶ 64
20251028 11:20:10 ▶ 65
20251028 11:20:04 ▶ 64
20251028 11:19:56 ▶ 65
```

対象のログリストを選択し、メインノブを押すと、DETAIL VIEW画面が表示されます。

メッセージの詳細は、本書の資料>「メッセージリスト」をご参照ください。

QRコードをモバイル端末で読み取ると、メッセージの詳細を見ることができます。

```
UTILITY>LOG LIST
2
DETAIL VIEW
#
ID:3
#
2025/10/27
15:26:04
INFO:68
EVENT
SWITCHED TO MIC EQ
SETTING
```

 NOTE

この画面表示中にメインノブを回すと、前後のログ情報に切り替わります。

4.4.7. MANUAL

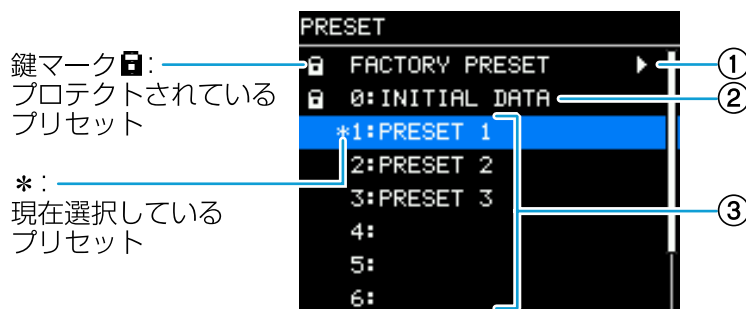
「ユーザーガイド」を読み取るQRコードが表示されます。

QRコードをモバイル端末で読み取ると、機能や操作方法を詳細に説明している「ユーザーガイド」を見ることができます。



4.5. PRESET画面

音に関わる設定をプリセットとして呼び出したり、保存/消去/タイトルの編集/プロテクトの設定をしたりします。呼び出し専用のプリセットには、常にプロテクトがかかっています。パラメーターを変更すると、HOME画面にEマークが表示されます。



① FACTORY PRESET

DXRmk3シリーズ、DXSmk3シリーズを組み合わせる場合は、相互にモデル名の付いたプリセットを呼び出すことで、クロスオーバー周波数、レベル、ディレイ値を最適化できます。呼び出し専用です。

例) DXSmk3 FACTORY PRESET



② INITIAL DATA

初期設定に戻します。呼び出し専用です。

③ ユーザープリセットリスト

設定を8つ保存できます。呼び出し、保存、消去、タイトルの編集、プロテクトの設定ができます。

●操作するプリセットを選択します。操作を選択する画面が表示されます。

例) 操作するプリセットリスト：PRESET1



① RECALL (リコール)

保存したプリセットを呼び出します。
選択したプリセット番号とタイトルが表示されます。

② STORE (ストア)

現在の設定にタイトルを付けてプリセットに保存します。
保存されたら、「EXECUTED!」と表示され、OKを押すとPRESETのリスト画面へ戻ります。保存されないと「FAULT」と表示されます。プロテクトがかかっているプリセットに、上書きはできません。

③ CLEAR (クリア)

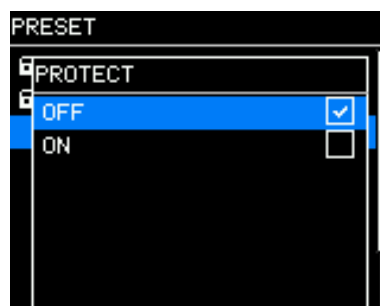
保存したプリセットを消去します。
プロテクトがかかっているプリセットや、現在選択しているプリセットは消去できません。

④ TITLE (タイトル)

保存したプリセットのタイトルを編集します。
保存されたら、「EXECUTED!」と表示され、OKを押すとPRESETのリスト画面へ戻ります。保存されないと「FAULT」と表示されます。プロテクトがかかっているプリセットのタイトルは、編集できません。

⑤ PROTECT (プロテクト)

保存したプリセットのプロテクトをオン/オフします。



ONに設定すると、プリセットの上書き (STORE)、消去 (CLEAR)、タイトルの編集 (TITLE) ができなくなります。また、PRESET画面のプリセットタイトルの左側に、鍵マーク[🔒]が表示されます。

5. Bluetooth® Audioの再生

モバイル端末などのBluetooth機器で再生する音声を、DXRmk3シリーズおよびDXSmk3シリーズで拡声できます。

Bluetooth機器を使って初めて接続する場合は、ペアリングが必要になります。ペアリングとはBluetooth機器どうしをあらかじめ登録することです。

一度ペアリングすると、Bluetooth接続を切断してもそれ以降は簡単に再接続できます。

Bluetooth機器を初めてペアリングする場合は、[UTILITY画面 > BLUETOOTH SETUP](#)をご参照ください。

6. D-Remote

Bluetooth対応のスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で、複数のスピーカーのパラメーターをコントロールしたり、動作状況をモニターしたりできます。

D-Remoteの操作方法については、「D-Remote ユーザーガイド」をご参照ください。

6.1. D-Remoteの接続

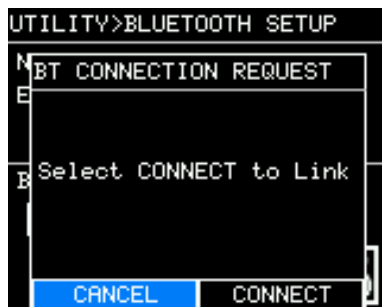
D-Remoteをインストールしたモバイル端末を接続します。

1. D-Remoteを起動します。
2. Speaker List画面が表示されたら、コントロールしたいスピーカーをタップします。

NOTE

接続したい機器がリストに表示されない場合にはリフレッシュボタンを押して再度検索してください。

3. [Connect]をタップします。
初回のみスピーカー本体の画面に、接続を要求する画面が表示されます。



[CONNECT]を選択すると、D-Remoteでパスワードが設定できます(設定しないと接続できません)。

NOTE

一度接続した機器を次回接続するときは、手順2、手順3は不要です。

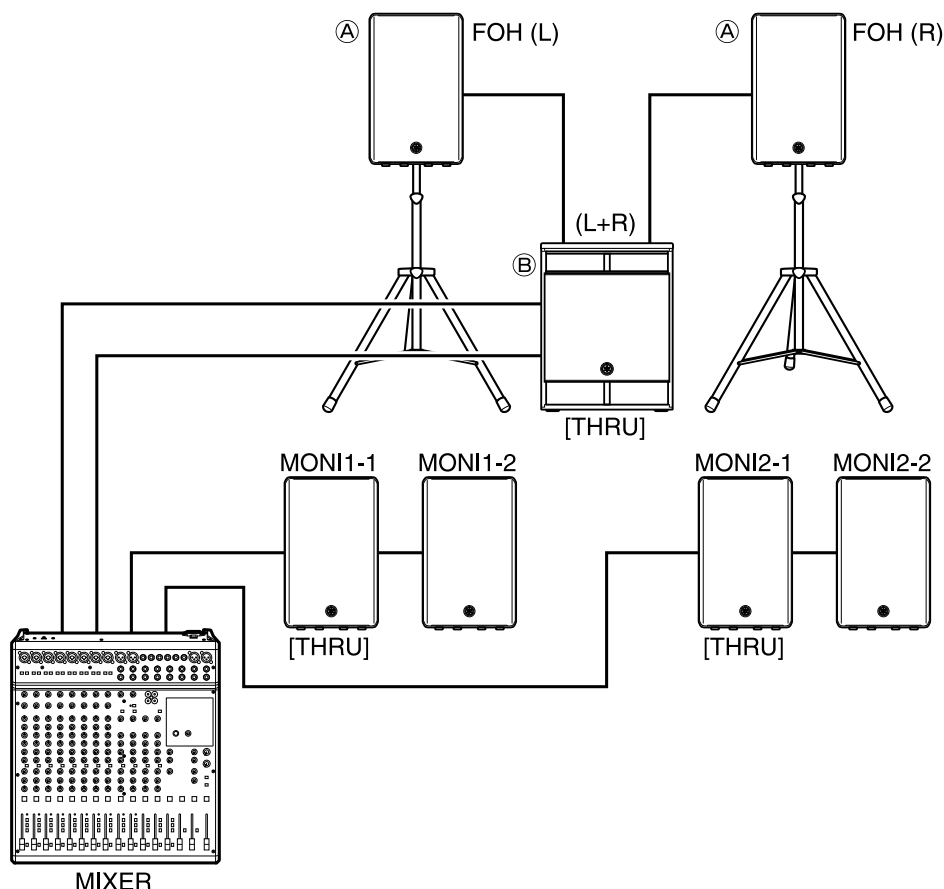
6.2. D-Remoteの切断

1. D-RemoteでSpeaker List画面を表示します。
2. [Disconnect]をタップします。

7. セットアップ例

■ システム例 1

2-wayスピーカーとサブウーファー、ステージモニターを組み合わせたSRシステムです。小規模ライブハウス、教会、イベント会場などで、低域を増強させたい場合に適しています。スピーカーは、DXRmk3シリーズ、DXSmk3シリーズのみを使用しています。



- ・ バスごと個別にアナログ接続
- ・ 同一音源は、[THRU/DSP OUT]スイッチで[THRU]に設定
- ・ DSP MODE (D-MODE) の設定
2-wayスピーカー (FOH) 使用時は、FOH/MAINに設定
ステージモニター (MONI) 使用時は、MONITORに設定

プリセットを使用すると上図のシステム設定を簡単に呼び出すことができます。

①でプリセットを呼び出す

```
PRESET>FACTORY PRESET
A: w/DXS18mk3
B: w/DXS15mk3
C: w/DXS12mk3
```

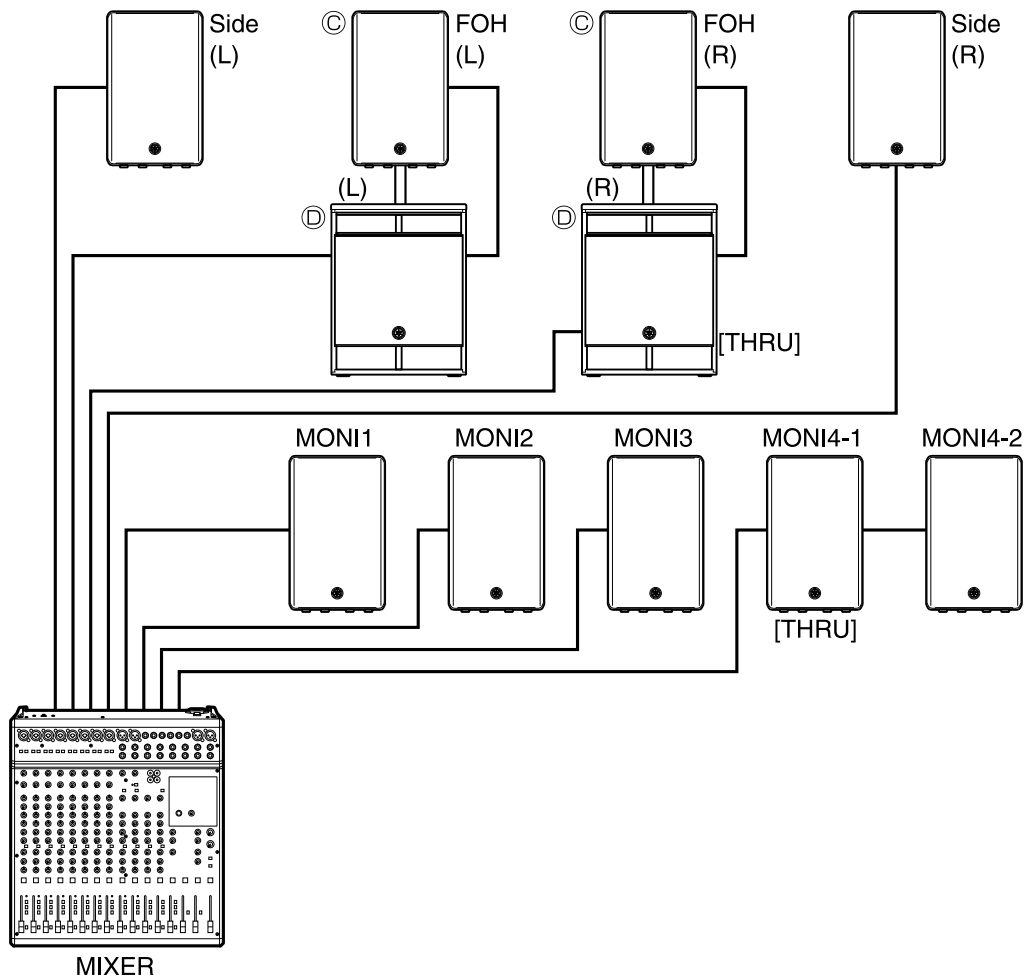
②でプリセットを呼び出す

```
PRESET>FACTORY PRESET
A: w/DXR15mk3
B: w/DXR12mk3
C: w/DXR10mk3
```

■ システム例 2

2-wayスピーカーとサブウーファーをスピーカーポールを使って組み合わせたSRシステムです。演奏者用とステージ両サイド用のモニタースピーカーも組み合わせています。

ライブハウス、教会、イベント会場などで、低域を増強させたい場合に適しています。スピーカーは、DXRmk3シリーズ、DXSmk3シリーズのみを使用しています。



- ・ バスごと個別にアナログ接続
- ・ 同一音源は、[THRU/DSP OUT]スイッチで[THRU]に設定
- ・ DSP MODE (D-MODE) の設定
2-wayスピーカー（FOH）使用時は、FOH/MAINに設定
モニタースピーカー（MONI、Side）使用時は、MONITORに設定

プリセットを使用すると上図のシステム設定を簡単に呼び出すことができます。

◎でプリセットを呼び出す



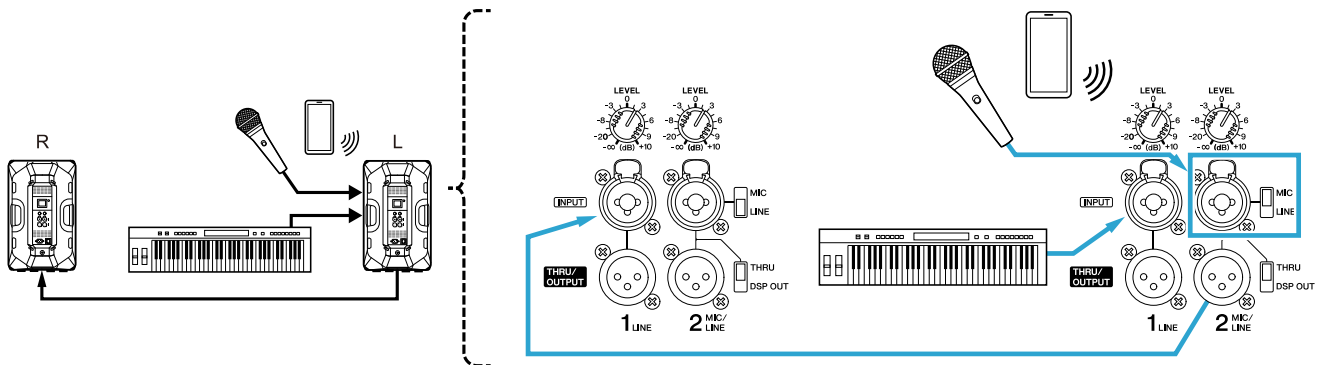
◎でプリセットを呼び出す



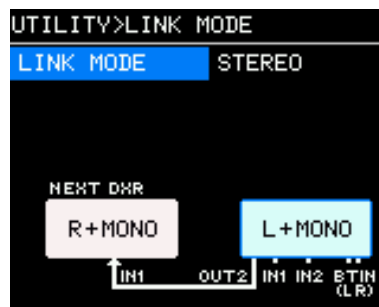
■ システム例 3

2-wayスピーカー1台にマイク、楽器、BGM用音源（Bluetooth® Audio使用）などを接続したSRシステムです。

小規模ワンマンライブ、プレゼンテーション、レストランなど幅広い用途にお使いいただけます。音量は[LEVEL]コントロールを使ってハウリングしないように調節してください。



ステレオ出力したいときは、LINK MODEを、STEREOに設定します。



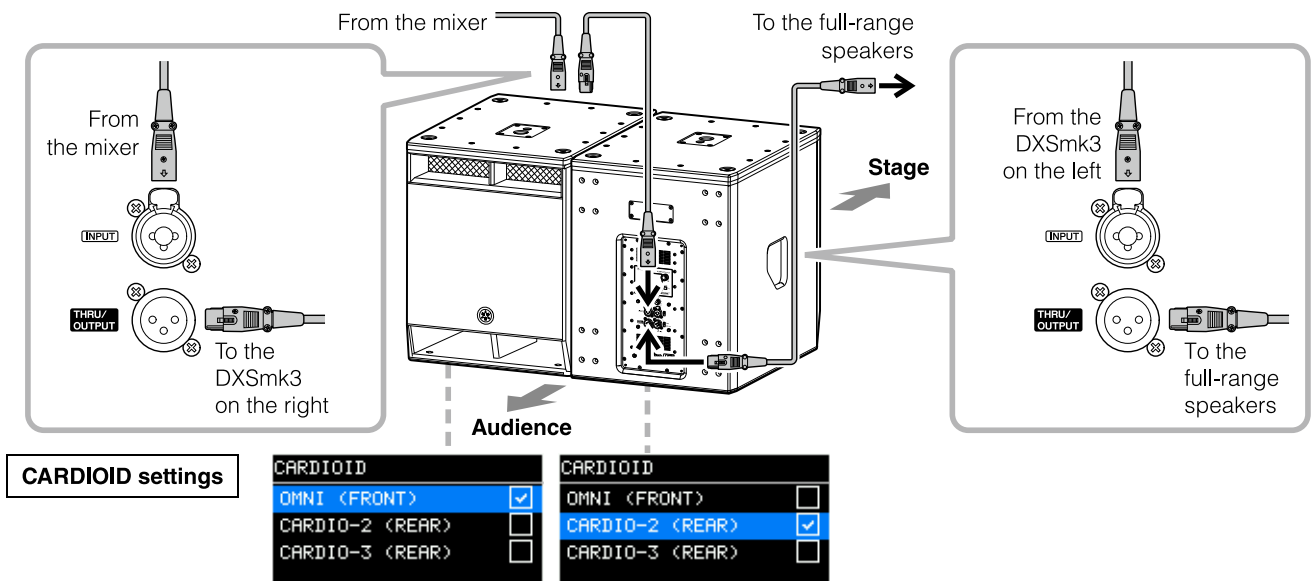
8. カーディオイドモードのセットアップ

DXSmk3の向きを前後互い違いに配置します。画面でカーディオイドモードを設定します。それ以外の設定（LEVEL、POLARITY、LPFなど）は、すべて同じにします。

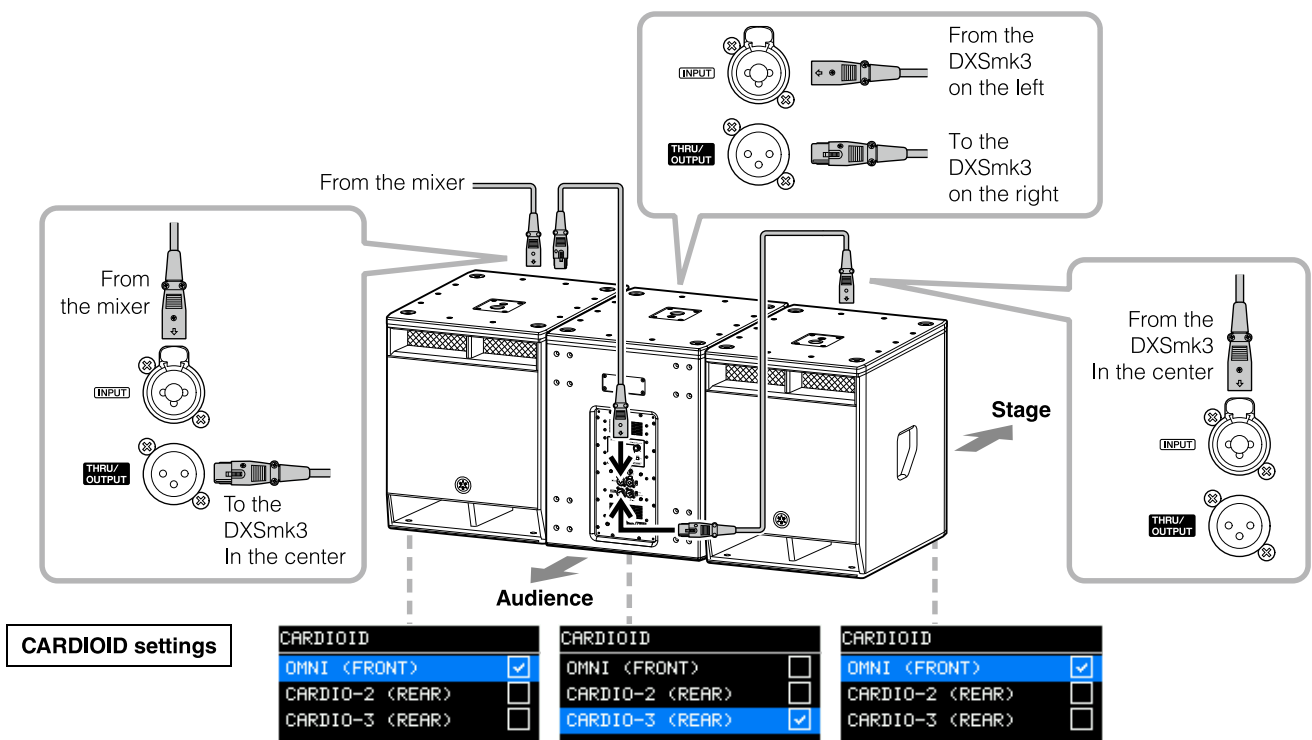
NOTE

- DXSmk3は同じ機種を使い、同じ信号を入力してください。[THRU/DSP OUT]スイッチを[THRU]に設定して、数珠つなぎにして使うこともできます。下の配置例をご参照ください。
- カーディオイド特性を効果的に得るためには、キャビネットを壁などから1.2 m以上離して設置してください。

■2台を横に並べた配置例



■3台を横に並べた配置例



9. 設置例



注意

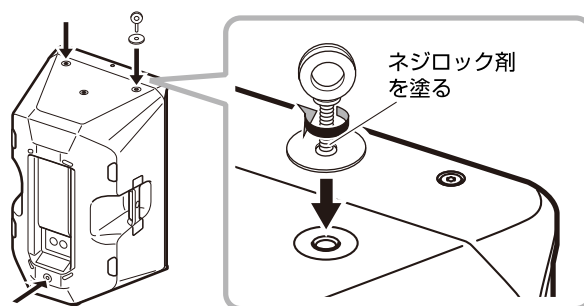
- ・ 設置および取り付け工事につきましては、お買い上げの販売店に依頼してください。
- ・ 安全にご使用いただくため、定期的に保守点検を行ってください。摩耗や腐食などにより、部品が劣化する場合があります。
- ・ ワイヤー、壁、天井、接続金具などがスピーカーの質量に十分耐えられる強度かを確認してください。
- ・ 安全ワイヤーを使って、必ず落下防止対策を施してください。
- ・ 安全ワイヤーを壁に取り付ける場合は、スピーカーのワイヤー取り付け位置より高いところに、あまりたるみが出ないように取り付けてください。長さに余裕がありすぎると、落下時にワイヤーへの負荷が大きくなり断線する場合があります。
- ・ アイボルトは各国の規格や安全基準に合ったものを使用してください。

取り付け箇所の強度不足や、取り付け方法の不備による落下などの事故に対しては、当社は一切の責任を負いかねます。

9.1. アイボルトを使用したつり下げ設置

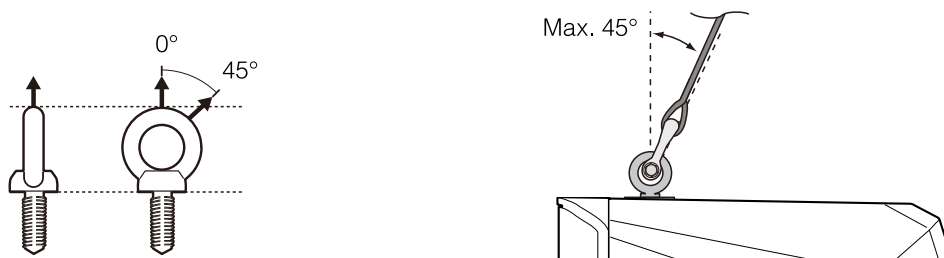
DXRmk3シリーズをつり下げる場合は、本体の天面2箇所と、背面1箇所にあるネジ穴（出荷時はシールが貼られています）を使用してください。ネジロック剤を塗った市販のアイボルトのネジ山に座金を通して取り付けてください。

DXR15mk3とDXR12mk3のネジ穴はM10（長さ18 mm以下のアイボルト用）、DXR10mk3のネジ穴はM8（長さ15 mm以下のアイボルト用）です。天面2箇所は必ず使用してつり下げてください。

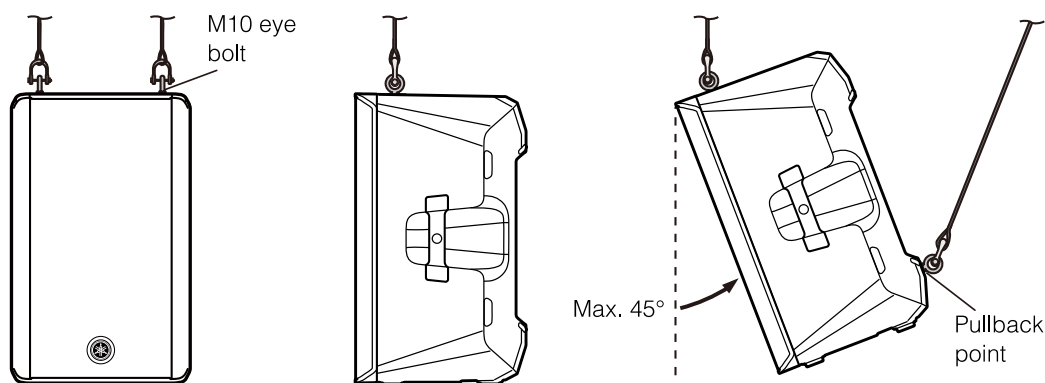


■ つり下げ角度

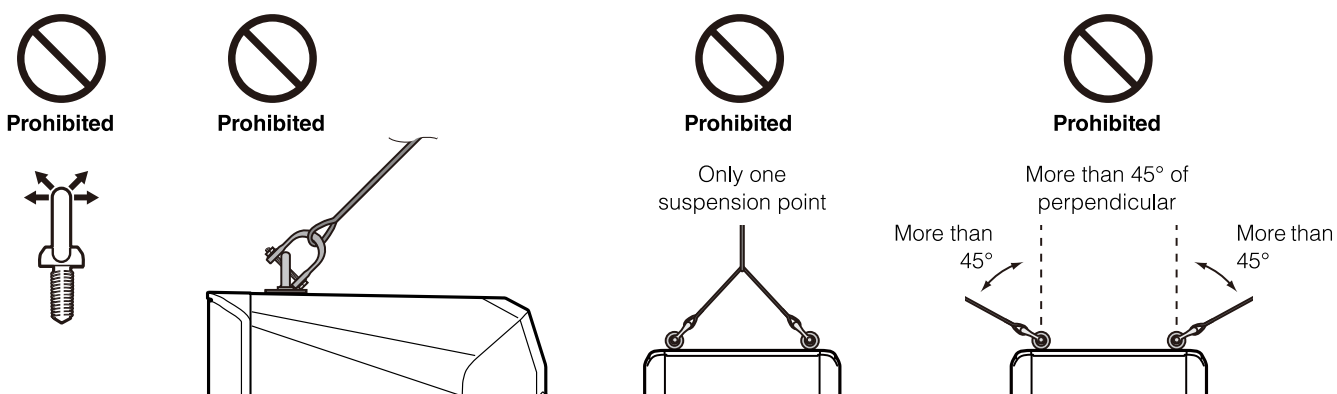
つり下げる角度によって、アイボルトの強度が異なります。アイボルトは鉛直から0°～45°の範囲で使用してください。



■ つり下げ例 (DXR12mk3)



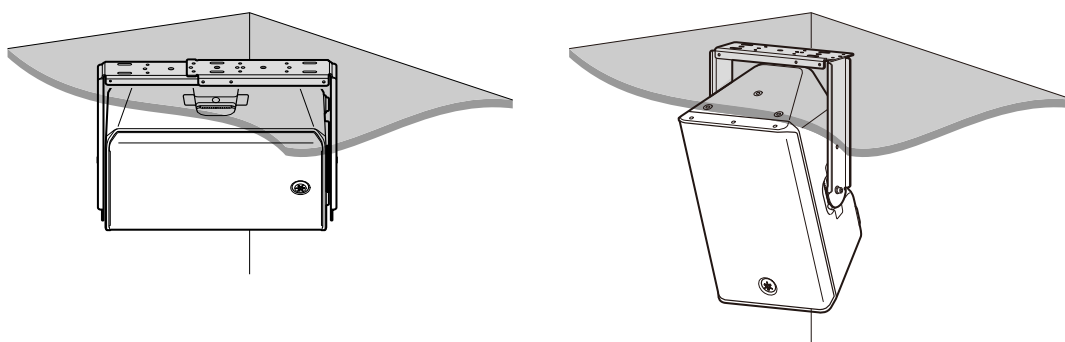
■ つり下げの悪い例



9.2. 専用Uブラケットを使用した設置

オプション（別売）のヤマハUブラケットを使って天井や壁に設置ができます。Uブラケットの取り付け方法については、UB-DXR15A、UB-DXRDR12A、UB-DXRDR10Aの取扱説明書をご参照ください。

■ 使用例



NOTE

Uブラケットは、別売のオプションブラケットと組み合わせて使用できます。
製品情報は下記のヤマハ プロオーディオ ウェブサイトをご覧ください。
<https://www.yamahaproaudio.com/>

10. 困ったときは

症状	考えられる原因	対策方法
電源が立ち上がらない	電源オフ/オンの間隔が短い	電源をオフにして、約6秒待ってからオンにしてください。
音が出ない	ケーブルが正しく接続されていない	ケーブルを奥までしっかり差し込んでください。
	専用アプリもしくは本体でDSP（デジタル段）のInput Levelが下げられている	専用アプリもしくは本体でInput Levelを上げてください。
突然音が小さくなった	アンプが高温になったため保護機能が作動して、リミッターがかかった	この場合、HOME画面にTHERMALの表示が出ます。アンプの熱が下がるように、出力レベルを下げ、リアパネル周辺の風通しをよくしてください。また、直射日光がリアパネルに当たらないようにしてください。
突然音が途切れた	アンプがさらに高温になったため保護機能が作動して、ミュートがかかった	この場合、HOME画面にTHERMALの表示が出ます。アンプの熱が下がるように、出力レベルを下げ、リアパネル周辺の風通しをよくしてください。また、直射日光がリアパネルに当たらないようにしてください。温度が下がったら自動復帰します。
	スピーカーユニットが破損した	HOME画面にMUTEDの表示が出ず、MAIN Meterが振れているのに音が出ない場合、スピーカーユニットが破損している可能性があります。修理ご相談センターにお問い合わせください。
画面表示がすぐに消える	AUTO DIMMER機能がオンになっている	メインノブか[←]（バック）キーを押すと通常表示に戻ります。解除状態を維持するには、HOME画面 → UTILITY → PANEL SETUP → AUTO DIMMERで設定をNEVERにしてください。
[LIMIT]インジケータが点灯し続ける。または、頻繁に点灯する	入力信号が大きすぎる	[LIMIT]インジケータがときどき点灯するように、MAIN Levelを下げるか、入力信号レベルを下げてください。
画面操作ができない	入力したPINコードが間違っている/忘れてしまった	MAINTENANCEで初期化してください。
Bluetooth接続ができない	別のBluetooth機器と接続されている	現在のBluetooth接続を切断してから、目的のBluetooth機器と接続してください。
	ペアリングが切れている	初期化の設定によっては、ペアリング情報も初期化されることがあります。再度ペアリングしてください。

症状	考えられる原因	対策方法
Bluetoothの音が途切れる	2.4GHz帯の電磁波を発するもの（ワイヤレスマイクの送信機、無線LAN機器、電子レンジなど）が本製品の近くにある	電磁波を発するものから本製品を離して設置してください。
	Bluetooth機器の無線LAN機能がオンになっている	無線LAN機能をオフにし、Bluetooth機能のみをオンにしてください。

11. 資料

<https://manual.yamaha.com/audio/rt/speakers/dxr-mk3-dxs-mk3/ja.html>

- ・ 機能ツリー
- ・ メッセージリスト
- ・ 仕様
- ・ 寸法図
- ・ ブロックダイアグラム

